



# アイサンテクノロジー株式会社 会社説明会

2025/02/15(土)



# AGENDA

---

” KABU BERRY LESSON”

投資初心者のための決算短信・資料の読み方入門講座  
～楽しく解説！気になる企業のチェック方法!～

講師：YAMA

---

【講演①】

中期経営計画初年度の進捗状況と  
2030年に向けた当社のビジョン

代表取締役社長 加藤 淳



【講演②】

第3四半期決算説明

取締役 曾我 泰典



【講演③】

公共ビジネスグループの今と今後

取締役 細井 幹広



【講演④】

モビリティDXグループの今後の成長戦略

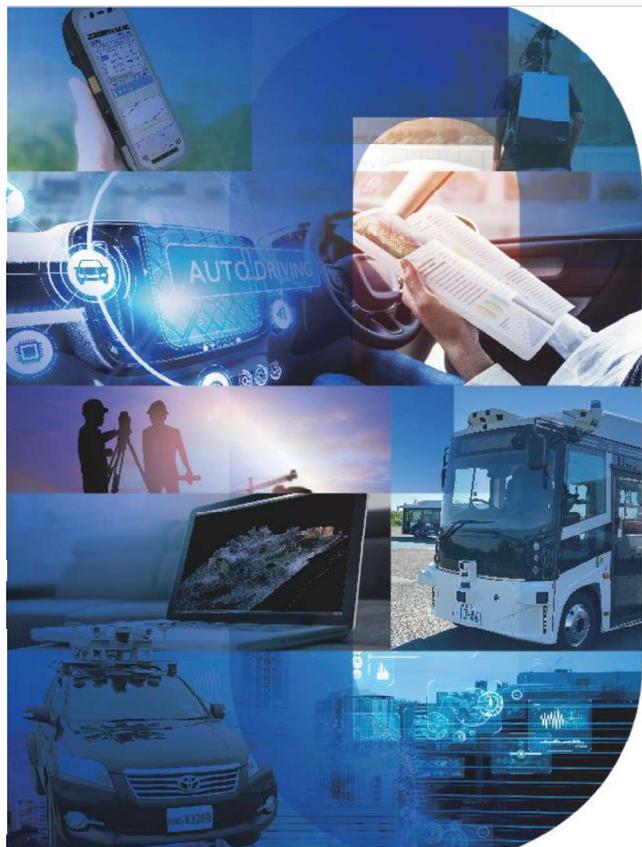
取締役 佐藤 直人



---

※講演で使用する資料と配布資料の内容に一部相違がございます。  
あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。





～ アイサンテクノロジー株式会社 ～

# 会社説明会

2025年2月15日  
加藤 淳



## ※ 目次



### 1. 会社紹介

### 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

### 3. 2030年に向けたビジョン

# 1. 会社紹介

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

## 3. 2030年に向けたビジョン

Copyright © 2024 Aisantechnology All Rights Reserved.

# 1. 会社紹介



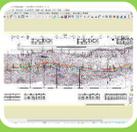
会社名	アイサンテクノロジー株式会社
代表者	代表取締役社長 加藤 淳
設立	1970年8月
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場:証券コード4667
従業員数(連結)	189名(2024年4月1日現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・測量CADシステムの開発・販売・保守</li><li>・計測機器、モバイルマッピングシステムの販売・保守</li><li>・自動運転に係るコンサルティング</li><li>・三次元地図データ計測、作成の請負</li></ul>
主な取引先	<ul style="list-style-type: none"><li>・測量、測量設計、建設コンサルタント業</li><li>・官公庁、不動産登記業</li><li>・地図関連業</li><li>・自動車関連業</li></ul>
グループ会社	株式会社 スリード、株式会社 三和 A-Drive 株式会社、有限会社 秋測

Copyright © 2024 Aisantechnology All Rights Reserved.

# 1. 会社紹介



## 公共セグメント事業



測量設計CADシステム



測量計測機器システム



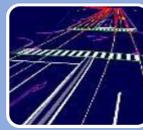
サポートサービス



## モビリティセグメント事業



自動運転ソリューション

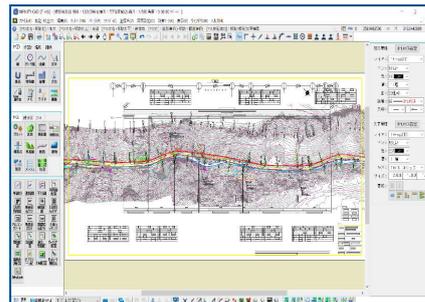
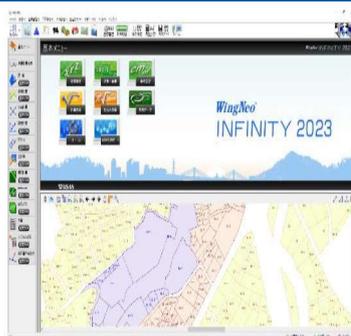


高精度3次元地図データ



モバイルマッピングシステム

# 1. 会社紹介



計測

データ処理

計算・CAD

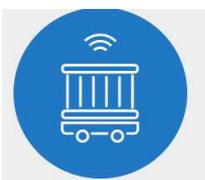
測量  
成果



# 1. 会社紹介



自動運転  
社会実装  
ソリューション



自動運転  
車両構築  
ソリューション



高精度  
3次元地図  
データ作成



モバイル  
マッピング  
システム



## ※ 目次

1. 会社紹介

2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

3. 2030年に向けたビジョン

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

### Development

1. 製品・ソリューションの開発強化
2. 人材のレベル・スキルのアップデート
3. 持続可能な成長への基礎固め



### Evolution

1. チャレンジ事業に挑戦
2. 営業活動の見える化
3. グループ全体に係るシナジーの発揮

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

### To Advance Society

未来の社会インフラを創造する

Development & Evolution

#### 公共BG

- ・新製品・サービスの継続的リリース
- ・パートナー企業・販売店とのコラボ強化
- ・営業拠点の増加
- ・官公庁事業の推進

#### チャレンジ事業

- ・3次元処理製品の拡販
- ・3D DX事業領域の立ち上げ
- ・A-Driveの成長
- ・グループ間シナジー創出

#### モビリティ・DX BG

- ・自動運転事業の収益化
- ・自動運転の社会実装
- ・自社ソリューションの強化
- ・原価率低減の取り組み

三和

秋測

A-Drive

スリード

#### 経営基盤強化

人財開発の強化(獲得と教育)

広報・IR活動の強化

グループマネジメントの強化

キャッシュフロー経営の推進

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

【単位:百万円】

科目\年度	55期 2025年3月期	56期 2026年年3月	57期 2027年年3月
売上高	6,000	7,200	8,000
営業利益	350	600	850
売上高 営業利益率	5.8%	8.3%	10.6%
経常利益	335	580	830
親会社に帰属する 当期純利益	221	382	547
配当金	20円	25円	35円
配当性向	49.3%	35.7%	35.9%

Copyright © 2024 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

### 経営目標

57期(2027年3月期)において、営業利益**8.5億円**を目指す

**D**evelopment(開発・創造) & **E**volution(進化)の実践

**顧客起点**の発想で、体験価値を提供する

自動運転に係る技術、ノウハウを**収益**に換える

広報活動の強化、CS・ES・IR・SRの実践から**企業価値**の向上へ

### 重要経営指標

売上高  
営業利益率 **10%**

ROE **8%**

配当性向 **35%**

### 非財務指標

連結  
従業員数 **235名**

男性  
育休取得 **100%**

女性採用 **10名**

Copyright © 2024 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

### 公共セグメント

【単位:百万円】

#### ※基本方針

- ・57期、37.5億円の売上達成
- ・新たな価値を創出
- ・グループシナジーの発揮

#### ※主要施策

- ・製品企画・開発の強化
- ・顧客体験を重視した製品利用環境
- ・人財育成と人財投与

#### ※成長分野

- ・高度化する三次元測量とその応用
- ・ICT活用による測量業務
- ・相続登記、所有者土地対応

科目\年度	55期 2025年3月期	56期 2026年年3月	57期 2027年年3月
売上高	2,928	3,218	3,757
営業利益	378	428	655
売上高 営業利益率	12.9%	13.3%	17.4%

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

### モビリティ・DXセグメント

【単位:百万円】

#### ※基本方針

- ・57期、42.3億円の売上達成
- ・A-Driveとの連携
- ・新たなDX領域の立ち上げ

#### ※主要施策

- ・自動運転社会実装で収益獲得
- ・ストックビジネスモデルの確立
- ・自社ソリューションの拡張

#### ※成長分野

- ・自動運転社会実装
- ・高精度3次元地図データ
- ・働く車市場

科目\年度	55期 2025年3月期	56期 2026年年3月	57期 2027年年3月
売上高	3,062	3,972	4,233
営業利益	191	379	432
売上高 営業利益率	6.2%	9.5%	10.2%

## 2. 中期経営計画に係る初年度の進捗



資本コスト・株価を意識した経営に係る中期経営計画での取り組み

1. 売上高と営業利益率伸長による収益力の向上

2. ROE、ROA、ROICの改善によるPBRの向上

3. 広報・IRの強化と株主還元強化によるPERの向上

## ※ 目次



1. 会社紹介

2. 中期経営計画に係る初年度の進捗

3. 2030年に向けたビジョン

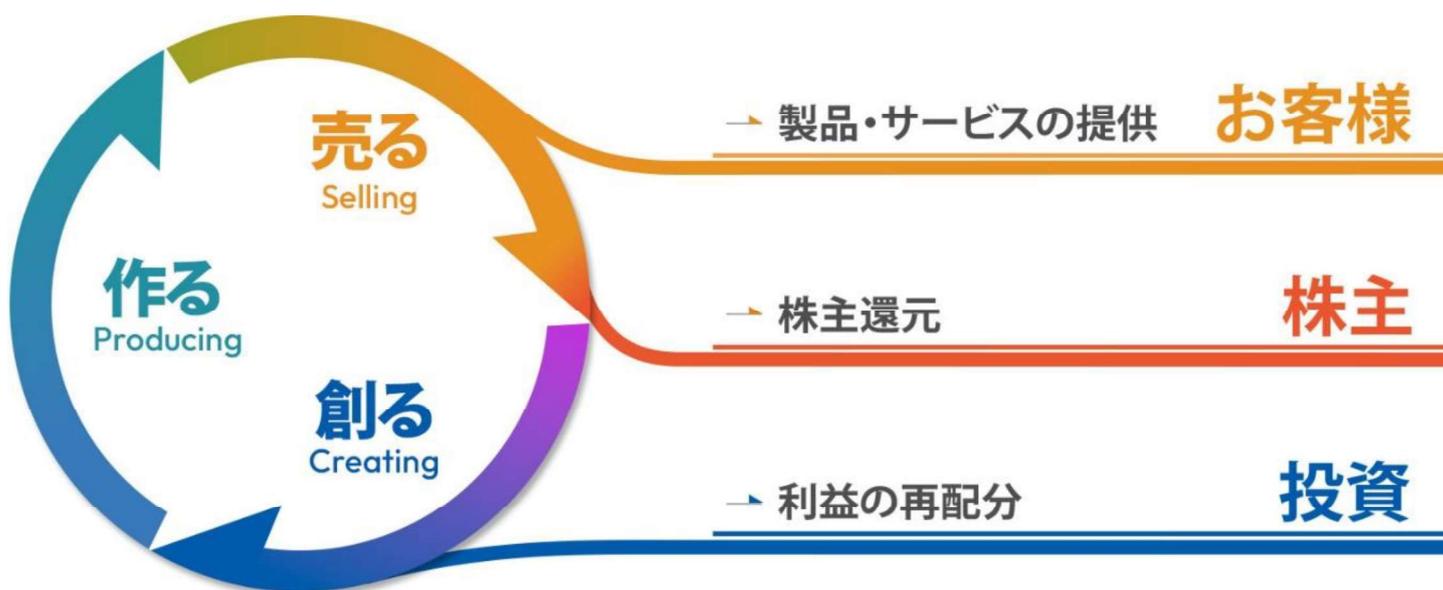
### 3. 2030年に向けたビジョン

※公共SEGの**競争力強化**

※モビ・DXSEG、自動運転事業の  
**収益加速**、3DDX事業の**立ち上げ**

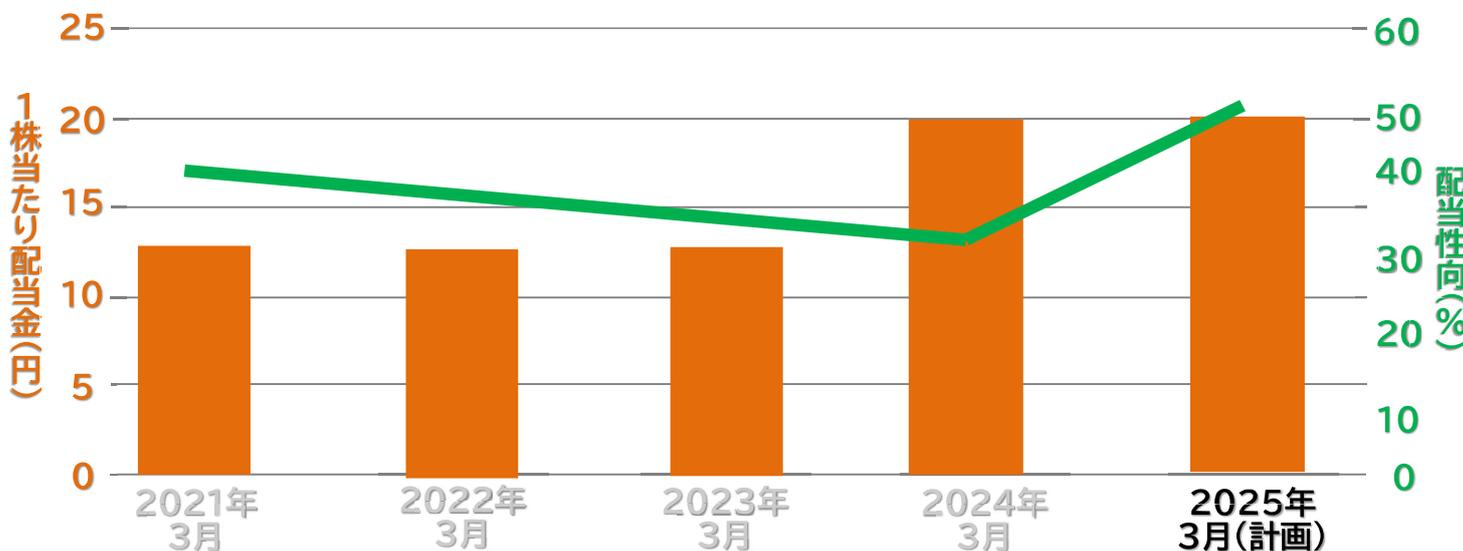
※社員一人ひとりが「**生き生き**」と

### 3. 2030年に向けたビジョン



### 3. 2030年に向けたビジョン

## 1株当たりの配当金及び配当性向推移



### 3. 2030年に向けたビジョン

# 社是

知恵

それは無限の資産

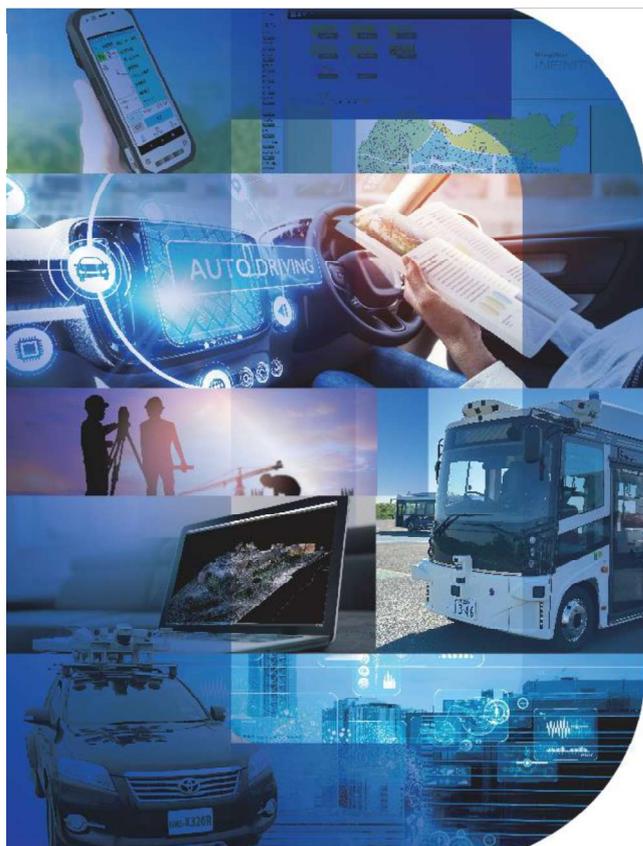
実行

知恵は実行して実を結ぶ

貢献

実を結んで社会に貢献





# 2025年3月期

## 第3四半期決算報告

2025年2月15日

曾我 泰典



### 決算概要



### 2025年3月期 第3四半期 業績ハイライト

(単位:百万円)

	2025年3月期 第3四半期 (2024.4.1~2024.12.31)	2024年3月期 第3四半期 (2023.4.1~2023.12.31)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	3,852	3,134	718	22.9%
営業利益	200	78	121	154.3%
親会社に 帰属する 四半期純利益	128	55	73	134.1%

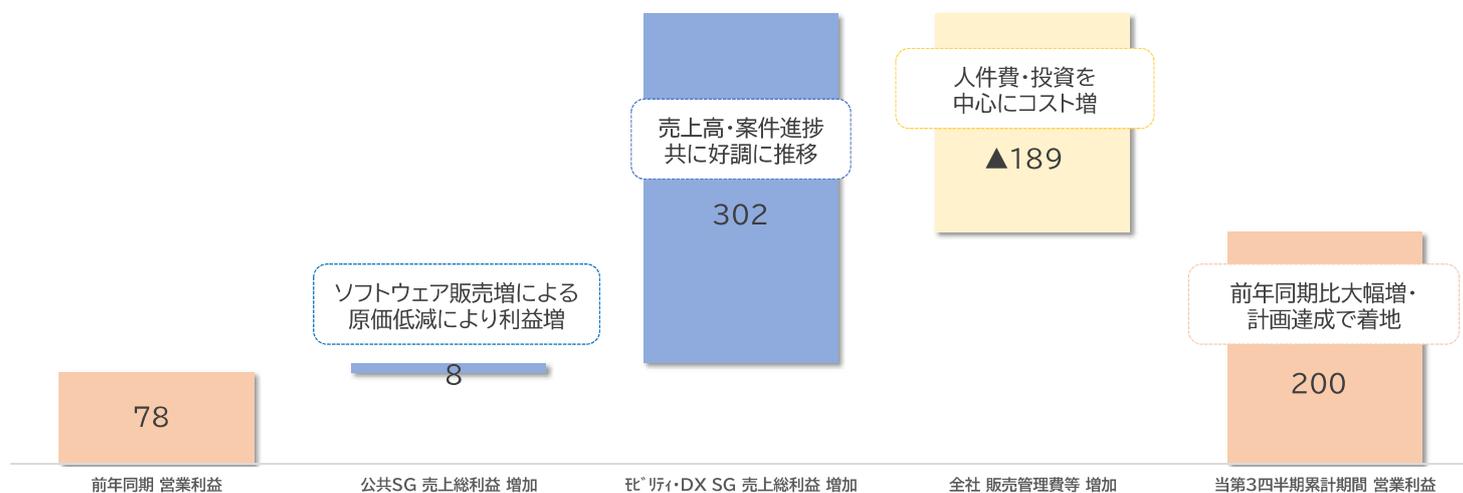
## 2025年3月期 第3四半期 ハイライト

- 前年同期と比較し、売上高、各利益項目において増収増益。  
人財投資を中心に各方面に積極的な投資を実施することから  
販管費は増加となるも、各利益項目は計画以上の着地となった。
- 高精度三次元地図、測量計測業務、自動運転実証実験等の各請負案件は前年同期を上回る実績及び受注状況であり、順調に推移。
- 生産性向上等の取り組みも行った結果、収益計上のタイミングが  
想定より早まった効果もあり、当第3四半期の売上高が伸長。
- 以上より、第4四半期に収益計上を予定している受注残高は  
前年同期と比較し減少も、当事業年度末に計画を達成する見通し。

## 営業利益 対前年同期比増減分析

営業利益 対前年同期比増減分析

(単位:百万円)



## 2025年3月期 通期達成目標及び進捗報告（売上高計画）

通期  
目標

60億円

- 基盤となる公共セグメントでは、持続的に安定した成長を目指す。
- モビリティ・DXセグメントは国や市場の動向と連動し、飛躍につながる重要期間として事業展開を行う。
- 以上より、前年比9.5%増となる売上高60億円を計画。



3Q  
進捗

38.5億円

- 公共セグメントにおいては、前年同期と同水準の着地。
- モビリティ・DXセグメントではMMS販売および各種請負業務の納品・収益認識増加により、前年同期より大きく伸長。
- 以上より、前年同期比22.9%増となる結果で着地。

前年同期  
参考値

売上高 31.3億円

5

## 2025年3月期 通期達成目標及び進捗報告（営業利益計画）

通期  
目標

3.5億円

- 2027年3月期に、当社グループ過去最高となる営業利益8億円を目指す。
- 当事業年度においては、上記計画を達成すべく、様々な先行投資を行う。
- そのため、一時的に営業利益計画を抑制し、前年比22.2%減となる営業利益3.5億円を計画。



3Q  
進捗

2億円

- 当第3四半期連結累計期間は、前年同期比154.3%増と大幅増加。
- 人件費、投資を中心に様々なコストの増加も発生するなど、販管費は前年同期を上回るが、売上高増加により営業利益計画も好調な進捗状況。

前年同期  
参考値

営業利益 78百万円

6

## 通期 目標

**5.8%**

- 昨年度より売上高は 増加、営業利益は下回る計画から売上高営業利益率については前年比約2.4ポイント減となる5.8%を計画。
- 2027年3月期には10%を達成する ため、当事業年度よりその基盤となる 製品・人財・事業に向けた投資を実施。



## 3Q 進捗

**5.2%**

- 前年同期と比較し、約2ポイント増加。
- 利益率の高い自社製品およびサービスの販売を引き続き推進する。
- 受注した案件は順調に進捗しており、年度末に向けて通期目標の5.8%を達成する見込み。

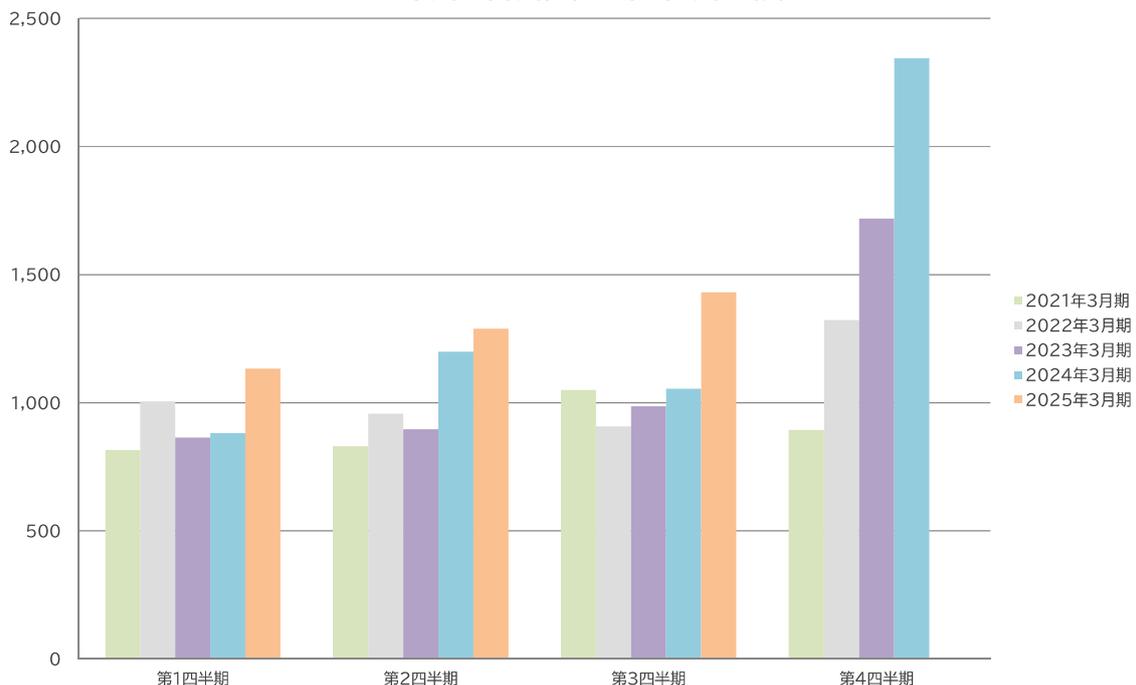
## 前年同期 参考値

売上高営業利益率 2.5%

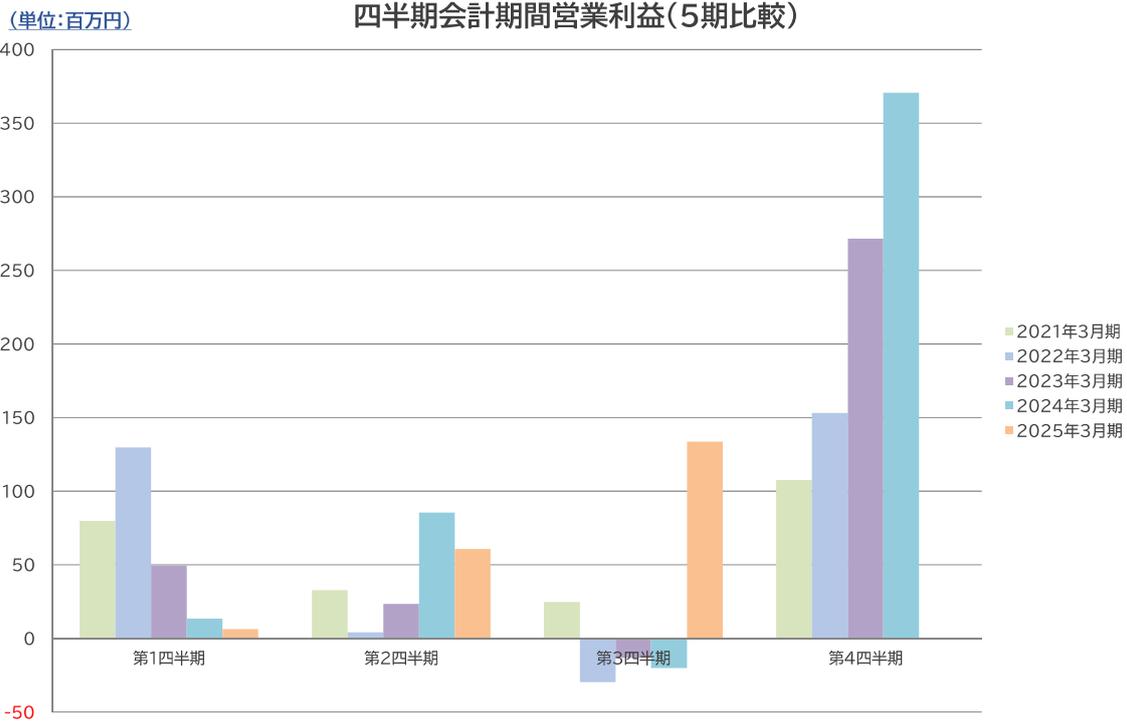
# 四半期会計期間 売上高 推移

(単位:百万円)

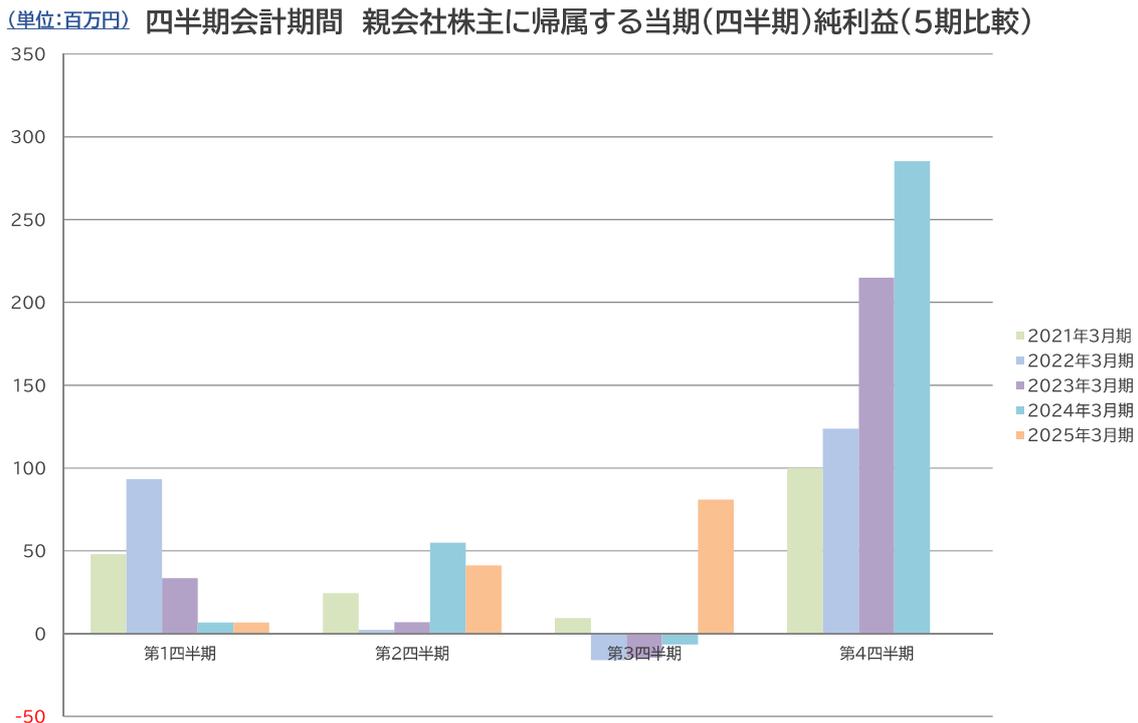
四半期会計期間売上高(5期比較)



## 四半期会計期間 営業利益 推移



## 四半期会計期間 親会社株主に帰属する当期純利益 推移



（単位：百万円）

	当連結会計年度			前連結会計年度		
	2025年3月期 第3四半期累計 実績	2025年3月期 年度業績 予想	年度業績予想に 対する進捗率 (%)	2024年3月期 第3四半期累計 実績	2024年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	3,852	6,000	64.2%	3,134	5,478	57.2%
営業利益	200	350	57.3%	78	449	17.5%
経常利益	194	335	58.0%	84	455	18.7%
親会社に帰属する 四半期純利益	128	221	58.3%	55	340	16.2%

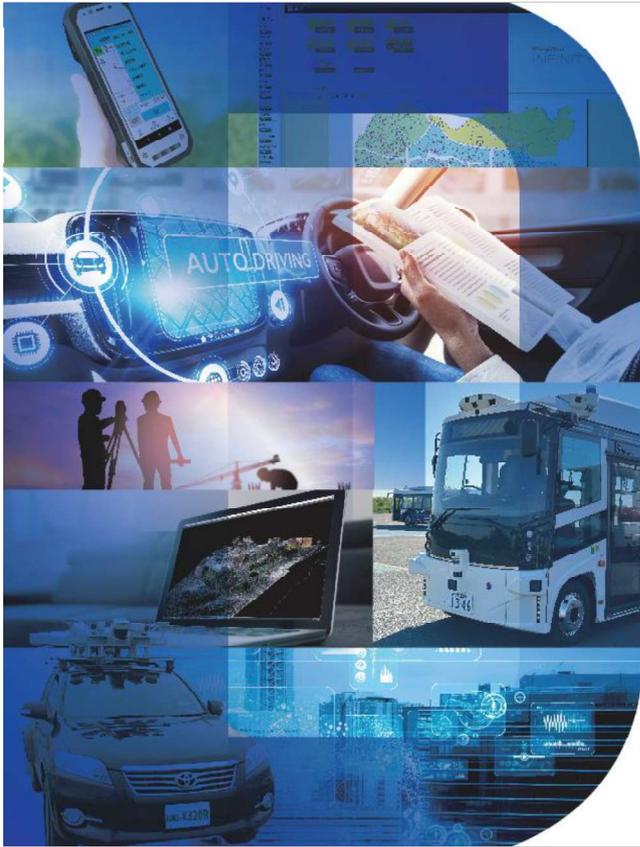
## TOPICS 自己株式の取得について

### ◆自己株式の取得終了

当社グループは、資本効率の向上を通じて、株主の皆様への一層の利益還元と、機動的な資本政策を遂行するため、自己株式の取得を実施し、2024年11月13日開催の取締役会にて決議いたしました取得上限に達したため、その取得を終了いたしました。  
詳細につきましては、以下をご確認ください。

- ① 取得した株式の種類 : 当社普通株式
- ② 取得期間 : 2024年11月14日～2024年12月16日
- ③ 取得した株式の総数 : 188,500 株
- ④ 株式の取得価格の総額 : 299,859,900 円
- ⑤ 取得方法 : 東京証券取引所における市場買付





## アイサンテクノロジー 公共セグメント

### 公共セグメントの役割

#### アイサンテクノロジー経営理念

知恵で地理空間情報のイノベーションを実行し社会資本の豊かな発展に貢献する

#### 公共セグメントの役割

### 基礎となる測量業務の効率、精度、信頼性を向上することで社会に貢献する

ITの普及により空間情報はデジタル化されより、身近な情報となり、ますますその有用性が認識されてきました。

そして安全・安心に空間情報を利用するためには、その位置情報の信頼性が重要となります。

公共ビジネス・グループでは位置情報の基礎となる測量業務の技術発展を推進することで、より高度に空間情報を活用できる社会を目指します。

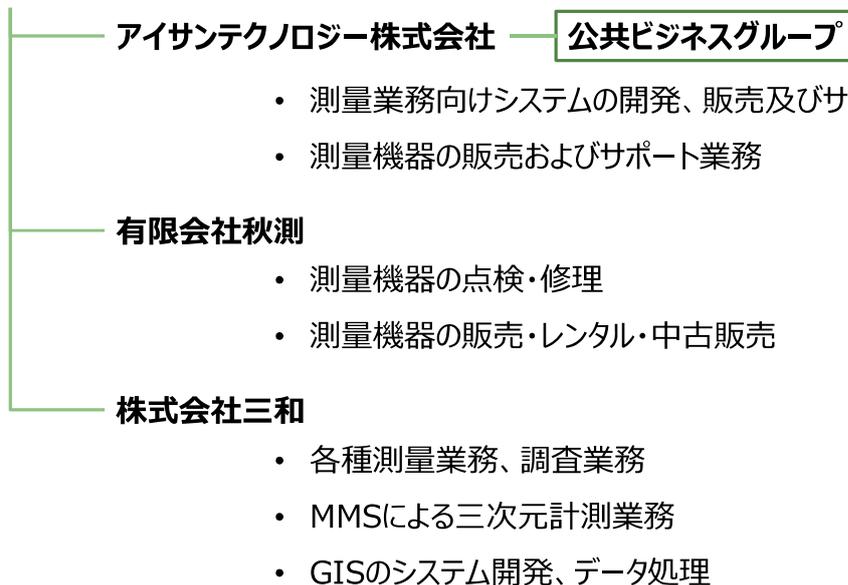


# 測る

アイサングループ  
公共セグメント

主な業務

主な顧客



- 主な顧客
- 公共測量事業者
  - 土地家屋調査士
  - 土木建設業者
  - 法務省・自治体
  - 自治体
  - 民間測量

業績目標推移

(単位：百万円)

	実績	計画		
	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期
売上高	2,642	2,928	3,218	3,757
営業利益	411	378	428	655
売上高営業利益率	15.5%	12.9%	13.3%	17.4%

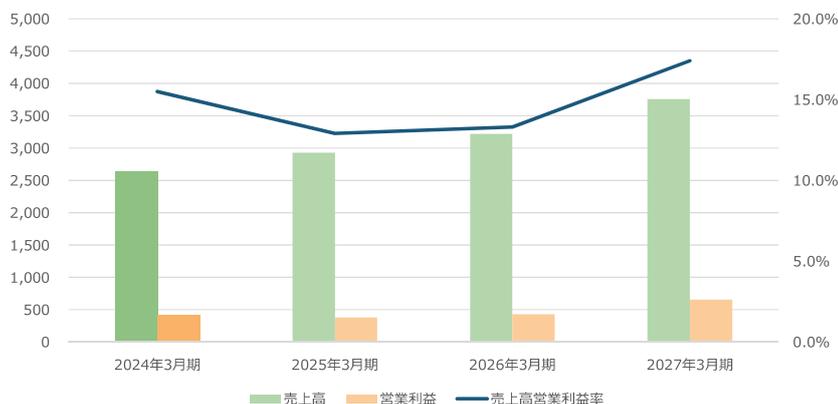
2027年3月期に37.5億の売上を達成

実現のために2024年度および2025年度では

- 人員の増員
- 活動の情報化
- 人財育成の推進
- 新製品の投入
- 販売店との連携強化

を実施します。

この為、一時的に営業利益が鈍化することを見込んでいます。



## 業績進捗



(単位：百万円)

	2025年3月期 第3四半期 (2024.4.1~2024.12.31)	2024年3月期 第3四半期 (2023.4.1~2023.12.31)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	1,926	1,951	▲24	▲1.3%
営業利益	304	331	▲27	▲8.2%

(単位：百万円)

	当連結会計年度			前連結会計年度		
	2025年3月期 第3四半期累計 実績	2025年3月期 年度業績 予想	年度業績予想に 対する進捗率 (%)	2024年3月期 第3四半期累 計実績	2024年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	1,926	2,928	65.8%	1,951	2,642	73.8%
営業利益	304	378	80.6%	331	415	80.0%
売上高 営業利益率 (%)	15.8%	12.9%	—	17.0%	15.7%	—

Copyright © 2024 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 業績進捗

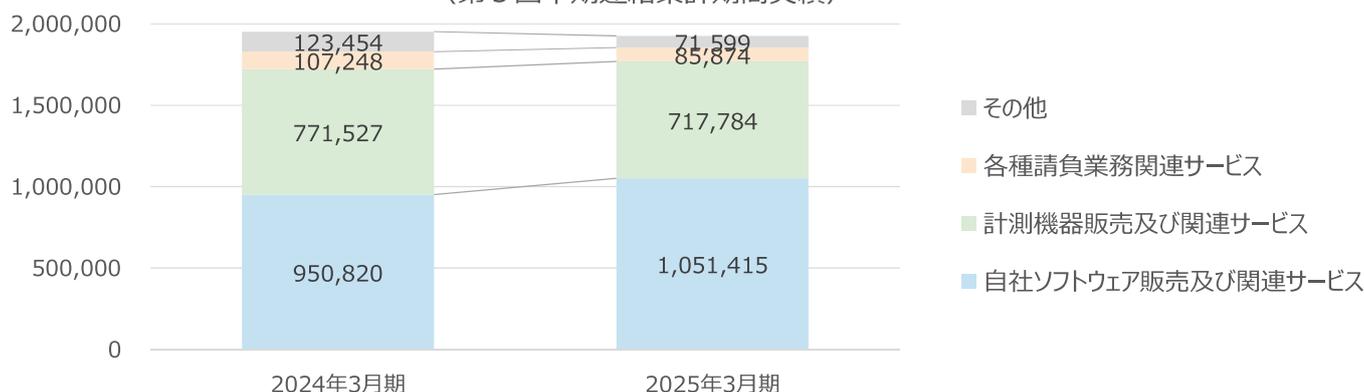


(単位：百万円)

請負契約に係る受注残高 (第3四半期連結累計期間末時点)			
	前連結累計期間	当連結累計期間	前期比 (%)
計測機器販売及び関連サービス	—	—	—
各種請負業務及び関連サービス	56	19	-66.1%
合計	56	19	-66.1%

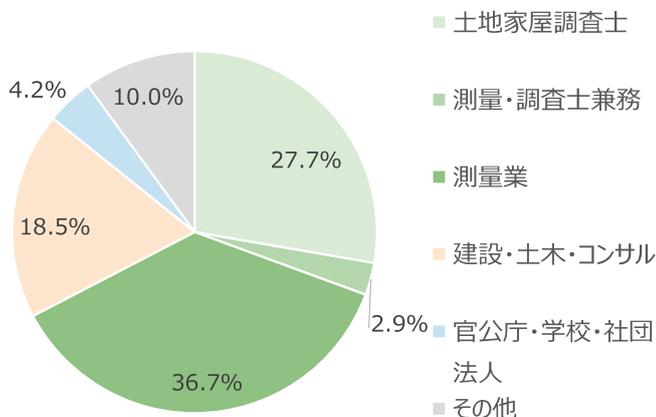
(単位：千円)

サービス別売上実績推移  
(第3四半期連結累計期間実績)



Copyright © 2024 Aisantechnology All Rights Reserved.

ユーザーターゲットの分類



土地家屋調査士

不動産の表示に関わる登記に必要な土地・家屋の調査を行い登記申請等の代理をする有資格者

測量業

国や公共団体が全部または一部を負担して実施される公共測量が多いが、一部民間測量の受託もある。測量には基準点測量、地形測量、地図整調、空中写真測量など様々な種類がある。地図の作成以外にも環境調査、インフラ点検などの業務もある。

建設・土木・コンサル

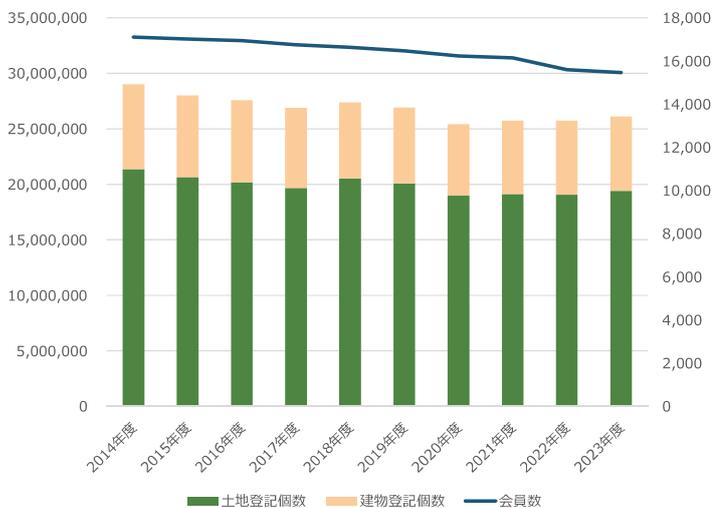
建設・土木の基礎情報となる測量を実施している企業が当社のターゲットになる。

官公庁・学校

不動産の表示登記に関わる法務省民事二課、各地域の法務局や地方自治体の建設・土木関連の部門が対象になる。測量を実施する学校も意外と多くある。

土地家屋調査士の現状

土地・建物登記個数と調査士の推移



土地家屋調査士合格者数



毎年420名ほどの土地家屋調査士が生まれている。

2014年度

197社

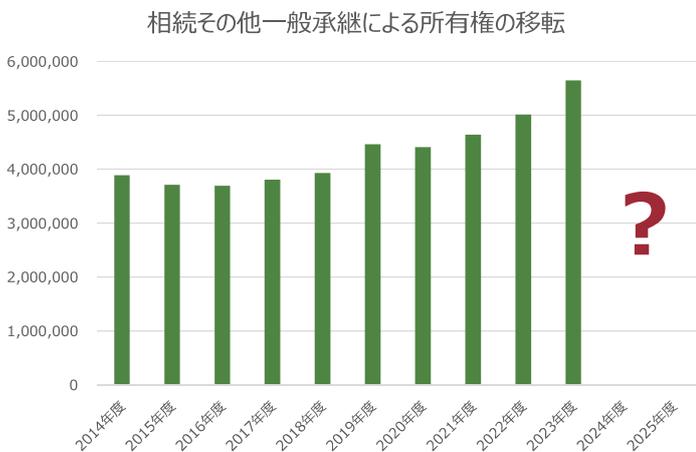
2023年度

617社

調査士法人は増え続けており、10年前の3倍以上に。

土地家屋調査士の登録者数は微減し続けている。

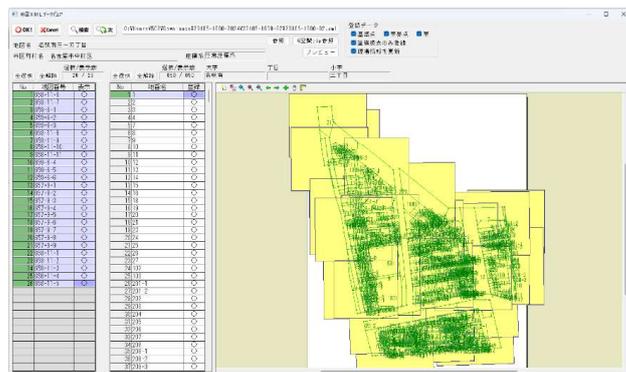
相続登記の義務化（2024年度）



相続に関する登記業務は年々増加傾向にある。猶予3年で、相続登記の義務化が施行されたことで、今後、相続登記は増えていくことが予想される。

登記所備付地図の一般公開（2023年度）

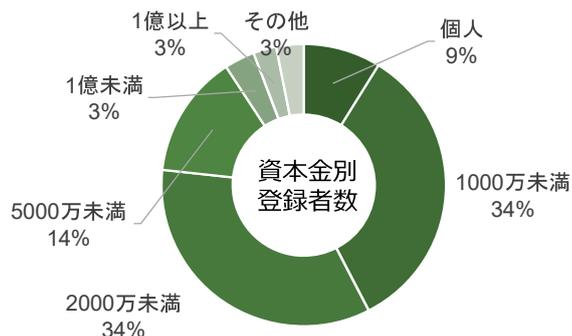
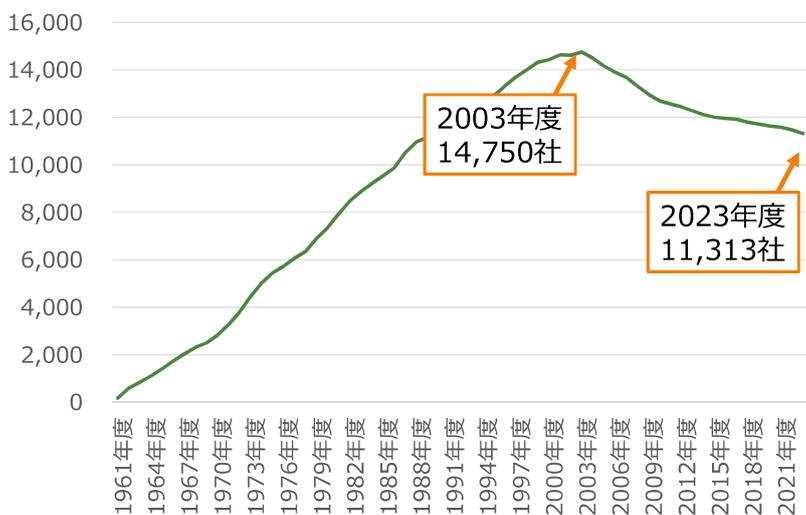
従来法務局で写しで交付を受けるかPDFでデータを閲覧することしかできなかった登記所備付地図が、加工可能なXMLデータとして無償一般公開された。



WingNeo INFINITY

測量業の現状

測量業登録数の推移

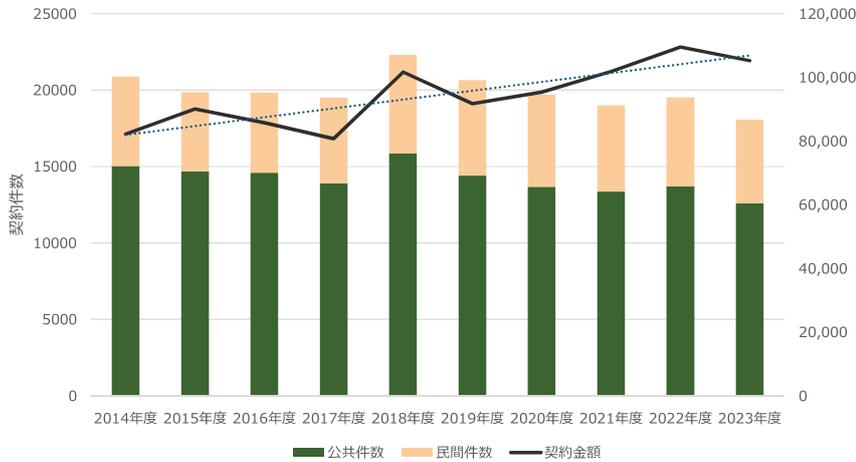


2003年度をピークに毎年減少。

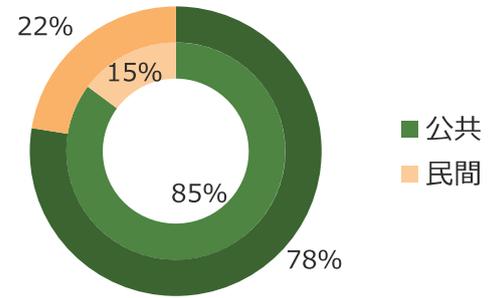
多くは資本金2,000万円未満の中小企業であり、高齢化と相乗してこの傾向は続くと予測。

一方で資本金1億円を超える企業は増加傾向にあり、企業の集約化がゆっくりと進んでいる。

測量契約件数と金額の推移



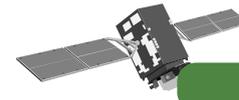
公共と民間の契約金額の割合



公共を中心に契約件数は減少しているが、民間契約の割合が増えたことにより、契約金額は増加傾向にある。

建設関連業等動態調査（測量業 50社）

- 2002 ● 測地成果2000導入に伴う公共測量成果座標変換マニュアル
- 2003 ● デジタルオルソ作成の公共測量作業マニュアル
- 2004 ● 拡張デジタルマッピング実装規約（案）
- 2005 ● ネットワーク型RTK-GPSを利用する公共測量作業マニュアル（案）
- 2006 ● 航空レーザ測量による数値標高モデル（DEM）作成マニュアル（案）
- 2007
- 2008
- 2009
- 2010
- 2011
- 2012 ● 移動計測車両による測量システムを用いる数値地形図データ作成マニュアル（案）
- 2013 ● 公共測量におけるセミ・ダイナミック補正マニュアル
- 2014
- 2015 ● 電子基準点のみを既知点とした基準点測量マニュアル
- 2016 ● GNSS測量による標高の測量マニュアル
- 2017 ● 地上レーザスキャナを用いた公共測量マニュアル（案）
- 2018 ● 三次元点群データを使用した断面図作成マニュアル
- 2019 ● 航空レーザ測深機を用いた公共測量について
- 2020 ● UAV搭載型レーザスキャナを用いた公共測量について
- 2021 ● 電子基準点のみを既知点とした3級基準点測量マニュアル（案）について
- 2022 ● i-Construction推進のための3次元数値地形図データ作成マニュアル
- 2023 ● LidarSLAM技術を用いた公共測量マニュアル
- 2024 ● 地上レーザ測量システムを用いた三次元点群合成マニュアル
- 2025



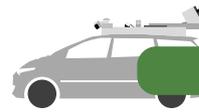
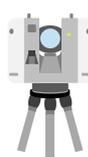
GPS/GNSS

デジタル空中写真測量（フィルタリング）

デジタル化



UAV



MMS

車載写真レーザ測量システムを用いた三次元点群測量マニュアル（案）  
マルチGNSS測量マニュアル（案）

3Dレーザ測量

公共測量成果改定マニュアル  
衛星SARによる上下変動測量マ

3D点群

建設産業の課題

生産年齢人口の減少や高齢化

災害の激甚化・頻発化

インフラの老朽化

DXの本格化

i-construction

調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までのあらゆる建設生産プロセスで ICT を活用

i-construction2.0

2040年度までに2023年度に比べ、3割の省人化。(1.5倍以上の生産性)を目指す。

国交省の取り組み

施工のオートメーション化

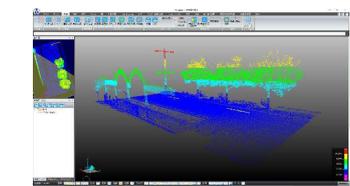
- 自動施工の環境整備
- 遠隔施工技術の普及促進
- 施工データの集約・活用の基盤整備

データ連携のオートメーション化 (デジタル化・ペーパーレス)

- 建設プロセス全体のデータ連携
- 3次元モデルの標準化
- デジタルツインの活用
- 施工データ活用の効率化
- データ活用による書類削減

施工管理のオートメーション化

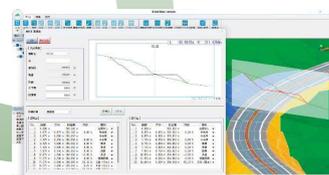
- リモート監督検査
- ロボットによる検査
- 高速ネットワーク整備
- プレイキャストの活用
- 先進技術の積極的活用



WingEarth



ANIST



GRAND BASE

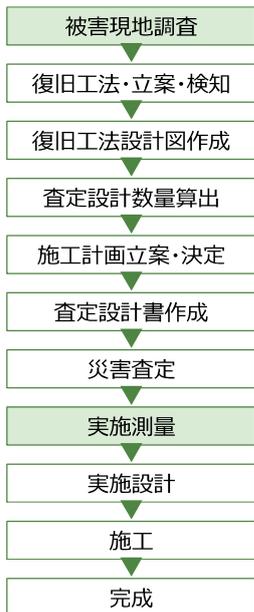
災害復興での重要な役割

課題

人海戦術による調査  
道路寸断による限られた移動手段  
2次災害の危険性  
写真が主体で精度が低い

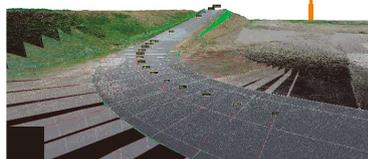
現地作業が多く、時間がかかる

現状



3次元点群/ICTの活用

高精度3次元地形情報



高精度3次元地形情報から詳細な復旧工法を検討。

高精度3次元地形情報を利用すれば災害査定もまた実施測量も不要に。

外業は従来の1/5、全作業は1/2の作業量に！

法務局における  
Wingneo/WingneoINFINITY  
導入割合



全国50の法務局で  
387ライセンスが利用されている。



主要都市に出店する7つの営業所  
+ 機動性を重視した3つの営業オフィス



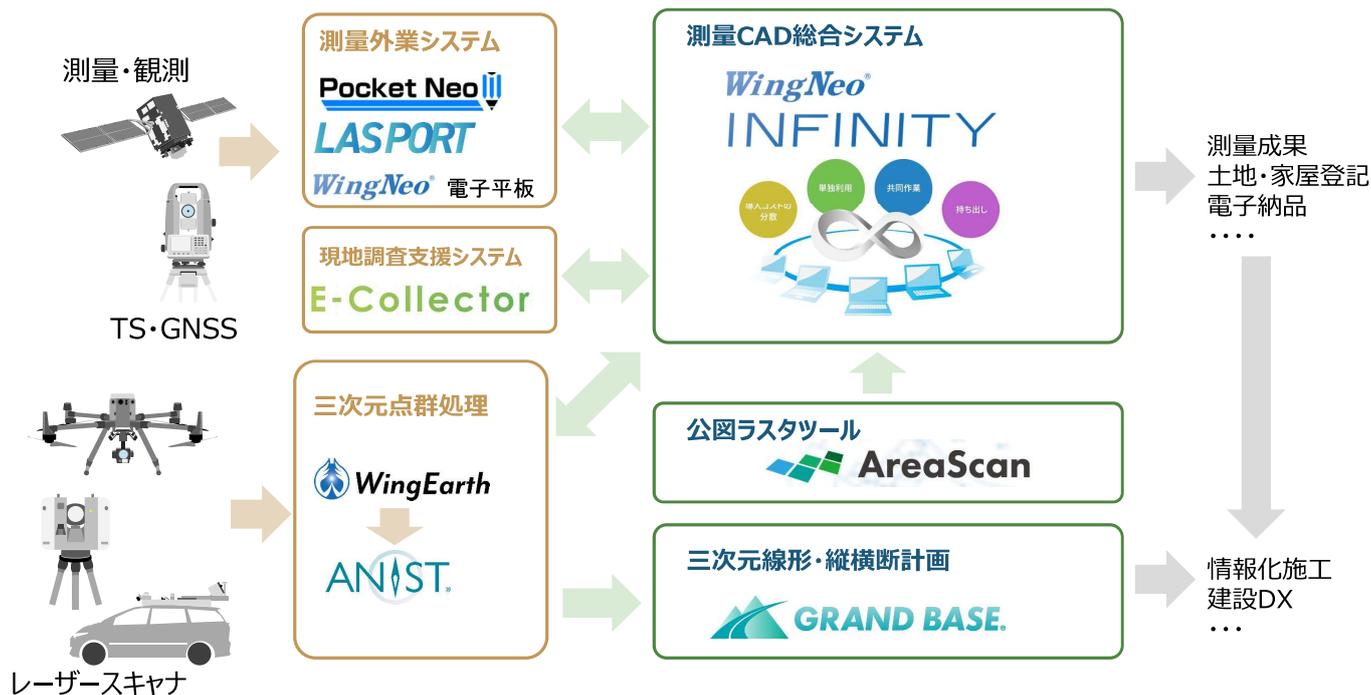
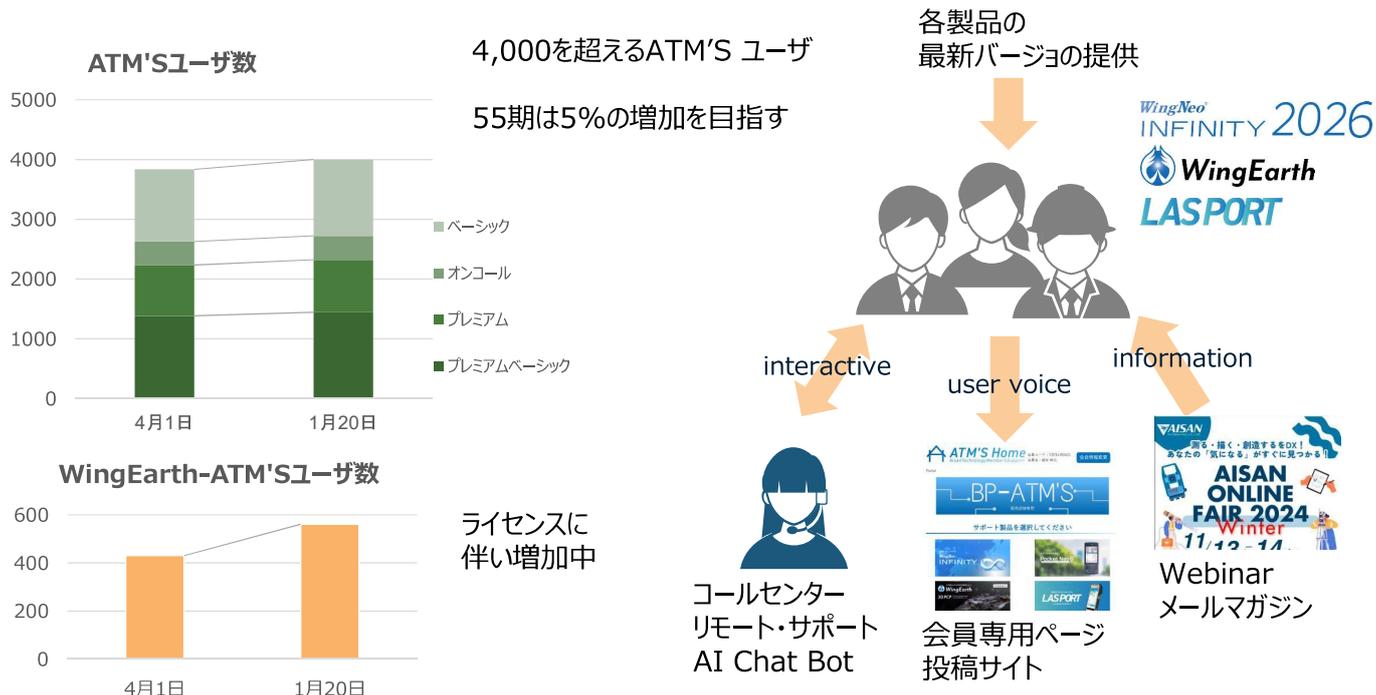
全国に広がる販売店・代理店  
157社(2023年度末集計)



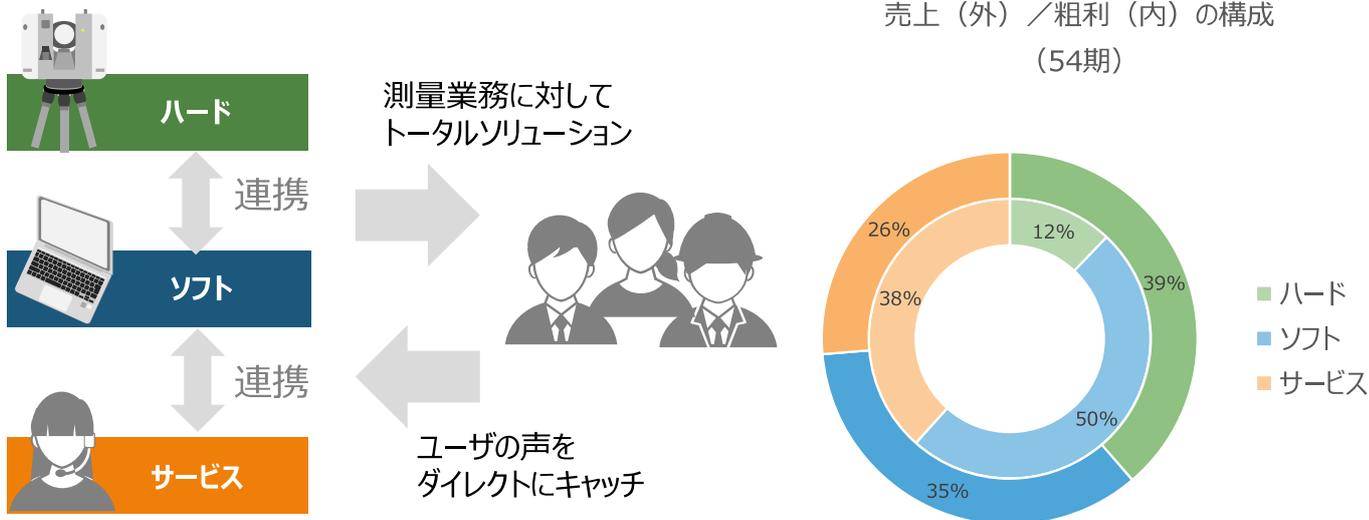
全国のユーザーにソリューションを提供

- 東日本測地営業部**
  - 北日本営業所 (仙台)
  - 関信越営業所 (埼玉) ...2024年度開設
  - 首都圏営業所 (横浜)
- 中日本測地営業部**
  - 東海営業所 (名古屋)
  - 関西営業所 (西宮)
- 西日本測地営業部**
  - 中四国営業所 (広島)
  - 九州営業所 (福岡)

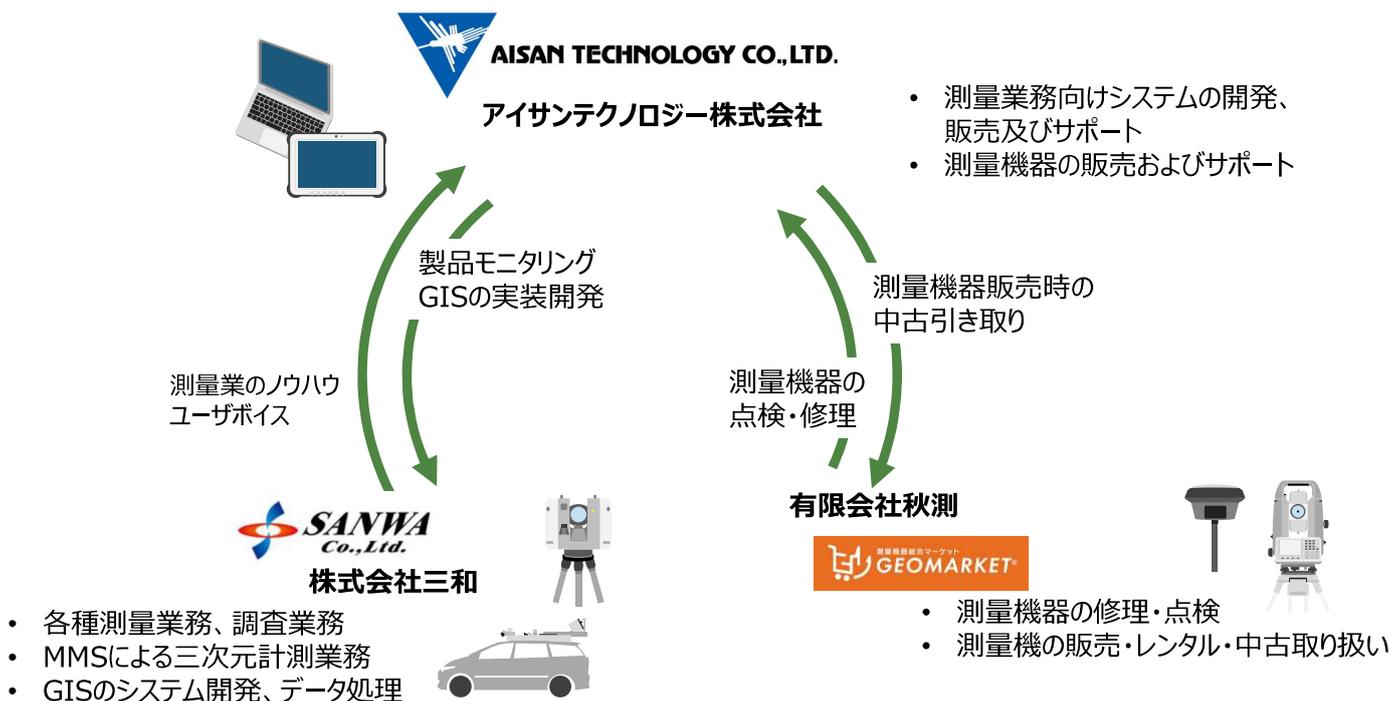




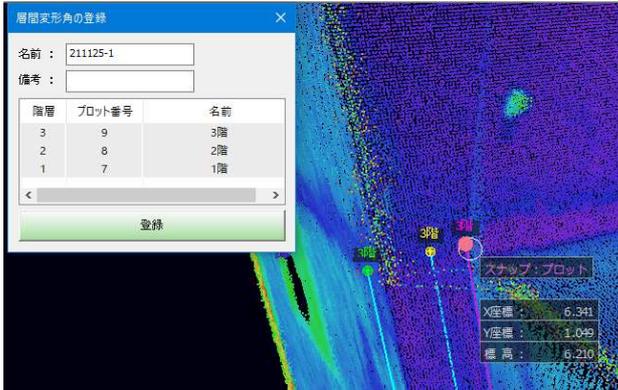
アイサンテクノロジーのソリューション



アイサングループ連携の強み



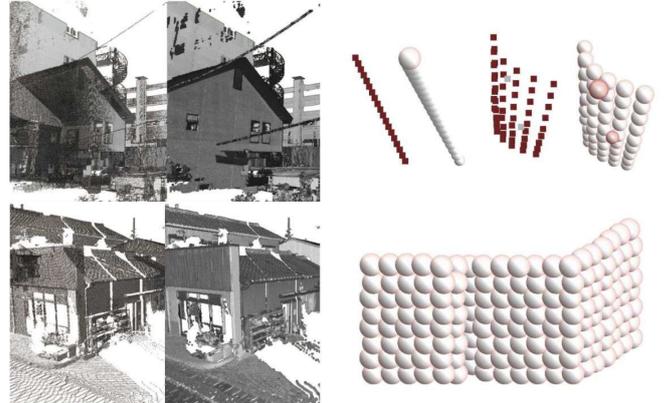
点群データを用いた被災建物の損傷評価



岡山大学と共同研究を進める二時期差分の技術を利用し、被災前後の点群データを重ね合わせ、差異分析を行う機能。従来の目視だけでは発見不可能な被災状況を早期に把握することができる。



3D点群から作図するための技術



点群を球体表現と膨張・収縮を自在に操ることで、点群の把握性を高め作図の効率化を実現。3D点群からの作図の作業効率を大きく向上させる。

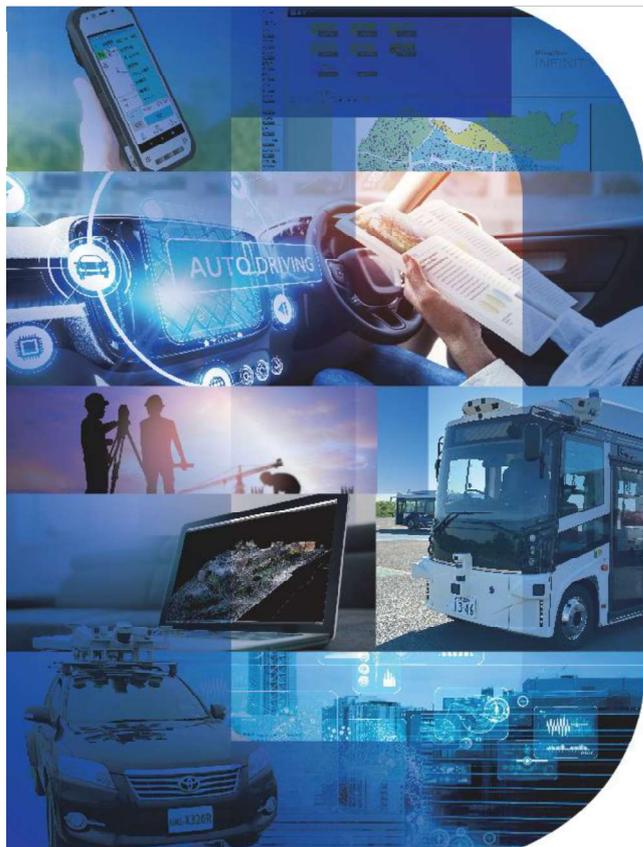


アイサンテクノロジー株式会社

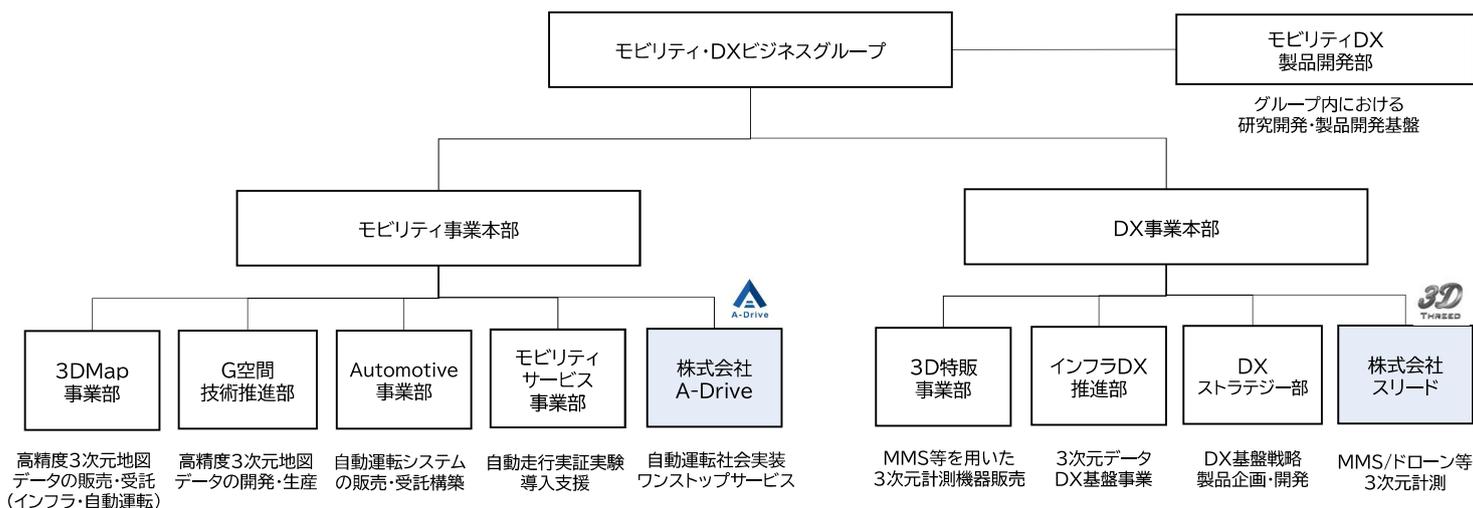
# モビリティ・DXビジネスグループ

～自動運転・交通DX・3次元データ基盤～

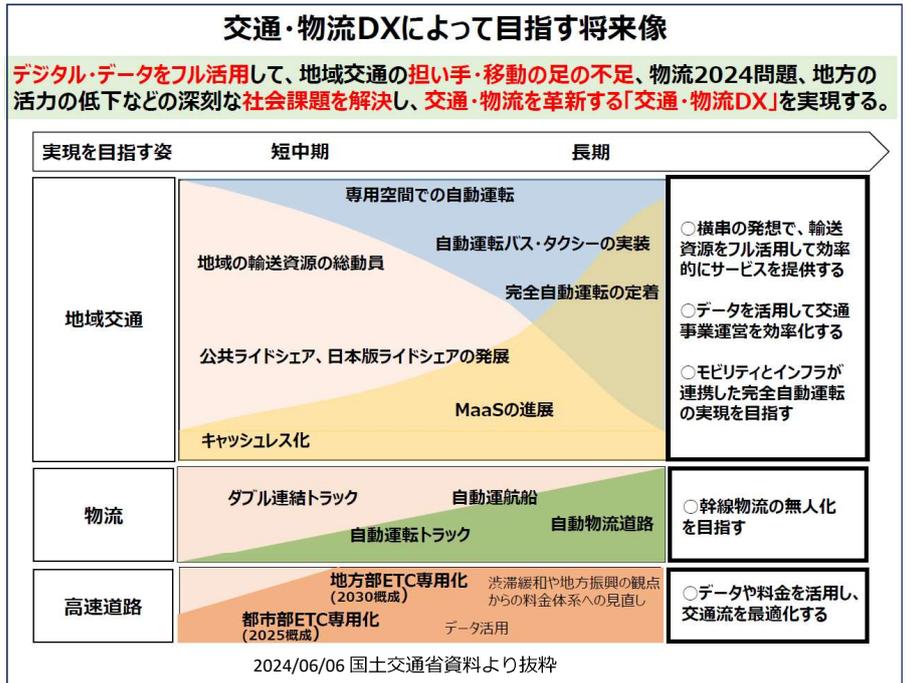
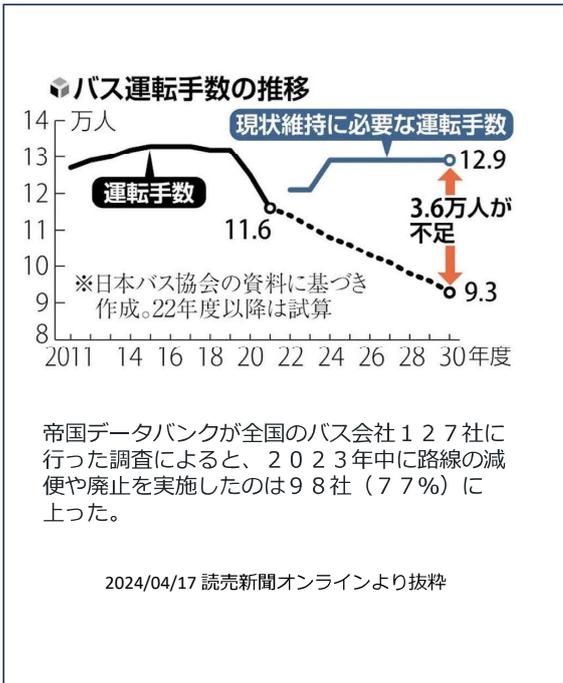
2025年2月15日



## モビリティ・DXビジネスグループ



# モビリティ事業本部ミッション：地域交通の担い手・移動の足の不足を、自動運転で解決する



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.



## モビリティ事業本部ロードマップ

### モビリティ分野における3本の柱

創業から培った測地技術を活用した高精度3次元地図



### TIER IV

Autowareを用いた様々な自動運転車両の構築実績

自治体や交通事業者向けの自動運転サービスの社会実装支援



### アイサンテクノロジーの強み

### モビリティソリューションのロードマップ

#### ●自治体、交通事業者、自動車メーカー等との協業、社会実装推進

2024年 2025年 2027年 2030年



路線バスなど公共交通への導入

・政府目標達成に向けた活動推進

・社会実装に向けた導入・支援サービス



トラックなど様々な働くクルマの自動運転実装開発



タクシーなど都市部自動運転サービス

#### ●自動運転導入に向けたワンストップサービス拡充



自動運転運行の導入、保守・メンテナンス等、ワンストップサービスの確立と運用



高精度3次元地図のDX活用に向けた取り組み



人材の継続的増員、育成、設備投資、研究開発促進



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

3次元計測  
&  
高精度地図  
作成



計測車両: MMS

▲地図編集ソフト: 3Dwing

自動運転車両  
構築

自動運転システムAutoware 仕様開発・実装

- ・自動運転システム仕様の要件定義を実施
- ・ODD 定義 (機能要求定義) を行い、仕様決定
- ・要件定義書に基づき Autoware システム構築・実装

センサー搭載の検討・設計及び架装

要望に応じて最適な車両取付(キャリブレーション)が可能  
※各種センサー(カメラ・IMU・GNSS・RADAR)の取付位置を最新の測量機材で計測し、キャリブレーションパラメータを作成



開発ステップでの課題解決に対応

- ・車両自己位置の精度検証 (GNSS・IMU・SLAM)
- ・各種センサー搭載率による走行環境のデータ収集

実用化向け関連システムの開発・搭載

- ・車室監視システム、遠隔監視システム
- ・ドライバー用 HMI

計画から実証実験、報告までワンストップで支援



自動運転  
実証実験  
サービス



国内最大級  
全国のべ120箇所以上の  
実証実験実績

3DMapping

Providing high-precision & quality 3dmaps for AD-Vehicles

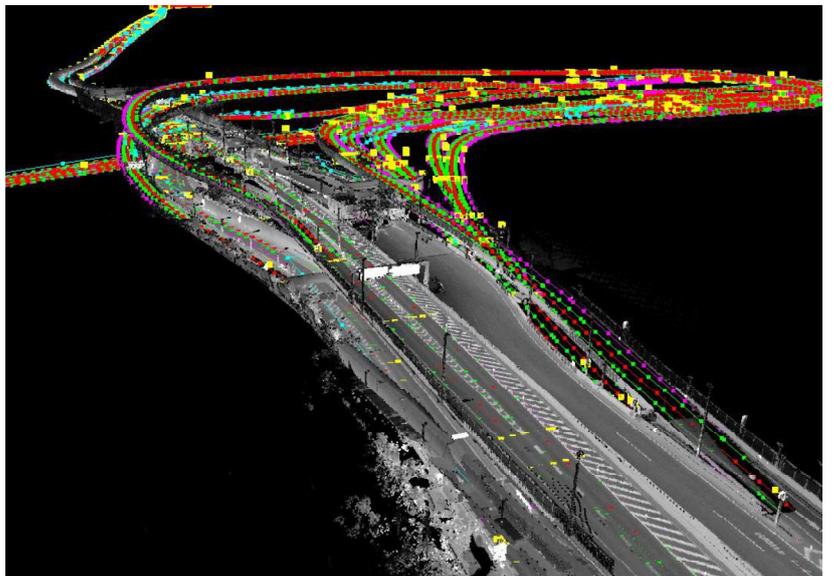
量産プロダクトライン

- ・量産向け人員のリソース配備
- ・定量的な大量生産/工程管理
- ・量産品質の検査管理
- ・仕様に合わせたソフトウェア開発

品質保証

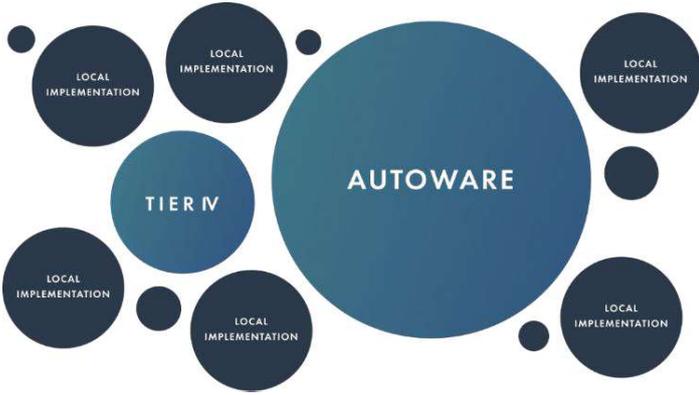
車載地図ベンダー

- ・2017年～：量産向けにADAS用量産HDmap生産開始
- ・2019年～：国内高速道・自専道2.7万km整備完了、地図ベンダーに提供中



# Automotive

Development process to make intelligent vehicles



- **Analysis & Conceptualization**
- 要件定義、ODDの定義、車両/システムの設計
- **Development & Testing**
- ADキットの設計・開発、車両組立・組込、試験・評価
- **Verification & Validation**
- ODDやサービス要件の評価、リスクアセスメント、地図作成
- 実環境に合わせた車両適合
- **Deployment**
- 車両の運用・管理、現場でのトラブルシューティング、オペレーターのトレーニング

Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.



# Mobility-Service

Supporting the Social-implementation of AD

2016年より、国内累計で120か所以上の公道実証を完遂。自動運転の社会実装に必要な様々なノウハウを蓄積



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.



# 自動走行システムについての国の政策・目標 SIP (戦略的イノベーション創造プログラム)

## ① 交通事故低減等 国家目標の達成

車・人・インフラ三位一体での交通事故対策を実行する技術基盤と実行体制を構築し、交通事故低減等 国家目標を達成する (2018 年を目途に交通事故死者数を2500 人以下にする)

## ② 自動走行システム<sup>(1)</sup>の実現と普及

ITS による先読み情報を活用し、2017 年までに準自動走行システム(レベル 2)、2020 年代前半に準自動走行システム(レベル3)を市場化する。さらに2020 年代後半以降に完全自動走行システム(レベル 4)の市場化を目指す。これにより、現在の自動車業界の枠を超えた新たな産業創出を図る。

## ③ 東京オリンピック・パラリンピックを一里塚として飛躍

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでは一里塚として、東京の発展と高齢化社会を見据えた、わが国の次の世代に資する次世代交通システムを実用化する。これをもとに、交通マネジメントとインフラをパッケージ化した輸出ビジネスを創出する。

自動化レベル	概要	左記を実現するシステム	
レベル1	加速・操舵・制動のいずれかを自動車が行う状態	安全運転支援システム	
レベル2	加速・操舵・制動のうち複数の操作を同時に自動車が行う状態	準自動走行システム	自動走行システム
レベル3	加速・操舵・制動を全て自動車がを行い、緊急時のみドライバーが対応する状態		
レベル4	加速・操舵・制動を全てドライバー以外が行い、ドライバーが全く関与しない状態	完全自動走行システム <sup>(4)</sup>	

### レベル2(自家用車)

### Nissan




Ariya      Selena

---

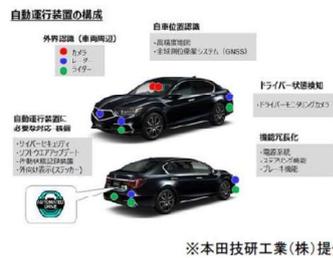
### Toyota




Lexus LS & MIRAI

### レベル3の実現(自家用車)

- 2020年3月 世界に先駆けて技術基準を策定  
⇒2020年6月 日本の基準と同等の国際基準が成立
- 2021年3月 世界で初めて販売開始(レベル3)



### レベル4の実現(移動サービス)

- 2023年5月 福井県永平寺町において 全国初のレベル4移動サービスを開始

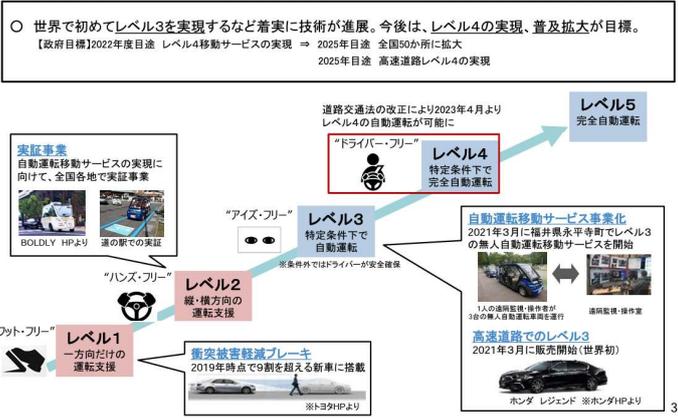


運転者が周辺監視	レベル 3	一定の条件下で、自動運転 (条件外では、ドライバーが安全確保)	実現できること ・ 画面の注視、 ・ 携帯電話の使用 など	“アイズ・フリー” 
	レベル 2	縦・横方向に運転支援	実現できること ・ (運転者の監視の下) 自動で車線変更 など	“ハズ・フリー” 
	レベル 1	縦または横の一方だけ運転支援	実現できること ・ 自動ブレーキ ・ 自動で車間距離を維持 など	“フット・フリー” 
	レベル 5	いつでも、どこでも、無人運転		“ドライバー・フリー” 
レベル 4		一定の条件下で、自動運転 (条件外でも、車両が安全確保)		“ドライバー・フリー” 

# 政府での自動運転導入目標「Road to the L4」

## 2025年度を目途に50か所程度、2027年度までに100か所以上の無人自動運転移動サービスを導入

### 自動運転技術の現状と目標

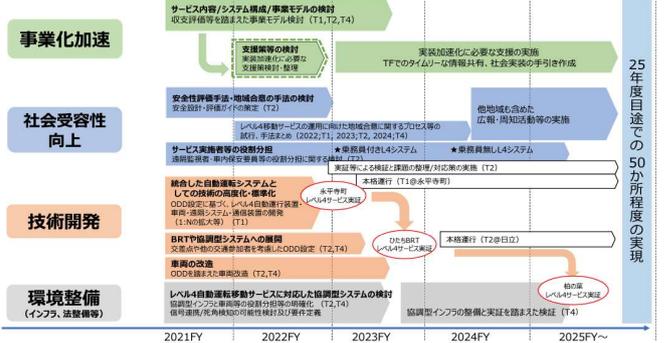


<https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001583988.pdf>

### 3. 自動運転移動サービスの実現に向けた取組について



- 2025年度目途の自動運転移動サービスの50か所程度の実現を目指し、2021年9月より「RoAD to the L4」プロジェクトを開始、モデル地域での実証実験、事業モデルの検討や社会受容性向上検討を実施すると共に、他地域の実装加速化に必要な支援を実施



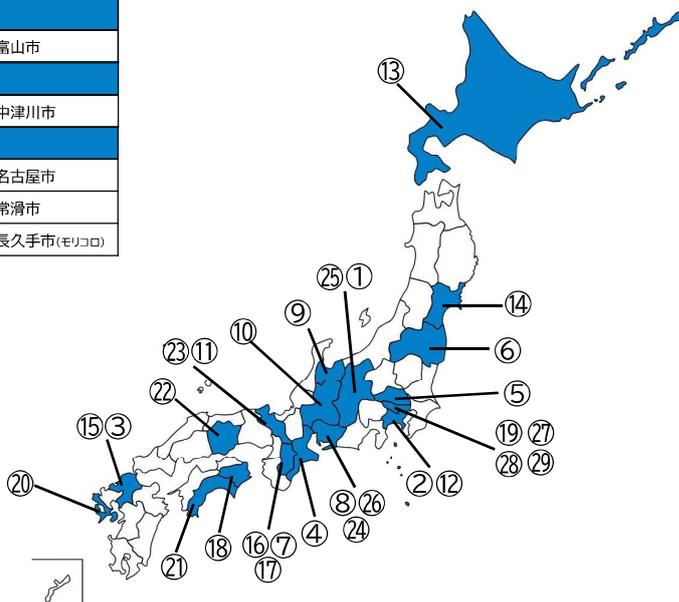
[www.road-to-the-l4.go.jp/publication/pdf/publication\\_01.pdf](http://www.road-to-the-l4.go.jp/publication/pdf/publication_01.pdf)

## 令和5年度 国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業（自動運転事業）」

### 全国で25地域に参画 (アイサン/A-Drive)

北海道
⑬ 千歳市
宮城県
⑭ 仙台市
福島県
⑥ 磐梯町
埼玉県
⑤ 深谷市
東京都
⑱ 新宿区
⑳ 杉並区(東京都市圏整備局)
㉑ 多摩市(東京都市圏整備局)
㉒ 八王子市(東京都市圏整備局)
神奈川県
② 平塚市
⑫ 川崎市
長野県
① 塩尻市
㉓ 飯田市

富山県
⑨ 富山市
岐阜県
⑩ 中津川市
愛知県
⑧ 名古屋市
㉔ 常滑市
㉕ 長久手市(モリコロ)



三重県
④ 桑名市
奈良県
⑦ 宇陀市
⑯ 三郷町
⑰ 明日香村
京都府
⑪ 京田辺市
㉖ 木津川市
岡山県
㉗ 備前市
徳島県
⑬ 那賀町
高知県
㉘ 香美市
福岡県
③ 北九州市
⑮ 宗像市

## 事例1 令和4～5年度 福岡県北九州市の取り組み

北九州空港～朽網駅線でレベル4の大型自動運転車両の有償サービスを開始して、順次「自動運転バスによる既存路線バスの置き換え」を図ることで、既存バス路線の確保・維持及び改善に繋げ「次世代に向けた安心・快適で持続可能な公共交通ネットワークの整備」の実現を目指す。加えて、北九州市での他エリアへの水平展開と、住民や観光旅客にとっての交通利便性・回遊性や、空港利用者の利便性を高めることで地域経済活性化を実現していく。

### 実証実験概要

<b>自動運転導入の目的</b>	公共交通における運転士不足問題等の解決
<b>使用車両</b>	いすゞ自動車製大型バス「ERGA」自動運転車
<b>走行距離</b>	約10.5km
<b>自動運転レベル</b>	23年度～24年度はレベル2 (27年度までにレベル4運行を目指す)
<b>運行期間</b>	24年10月下旬～24年12月中旬 (チューニング～一般試乗までを含む)



### 運行ルート



北九州空港～朽網駅を運行  
(夜間運行や一般試乗も実施)

### 推進体制



## 事例2 令和4～5年度 長野県塩尻市の取り組み

塩尻市では、20年度から自動運転及びAI活用型オンデマンドバスを含むMaaS実証実験に取り組んでおり、アルピコ交通、アイサンテクノロジー、ティアフォー、A-Drive、三菱商事の座組で支援。24年度には車両も導入し、レベル4認可を正式に取得。本格的な社会実装に向け、社会受容性の更なる強化と事業推進体制を構築していく

### 実証実験概要

<b>自動運転導入の目的</b>	塩尻MaaS関連事業と一体的に社会実装を図りながら、公共交通の利便性向上と、自家用車から公共交通への転換による交通事故の低減を図る
<b>使用車両</b>	ティアフォー minibus
<b>自動運転レベル</b>	24年度はレベル4認可取得 (車両認可および特定自動運行許可)
<b>運行期間</b>	24年11月下旬～24年1月末予定 (車両チューニング等の準備運行を含む)
<b>運行体制</b>	アルピコ交通のドライバー及び自営型テレワーク事業「KADO」人材へ運行オペレーションの技術移転を実施
<b>社会受容性の醸成</b>	事業認知度向上等に向け、近隣学校等と連携し、学生や高齢者向けの自動運転講座や試乗会を実施



### 運行ルート



24年度は、1区間でレベル4運行  
他区間はレベル2での混在型で実施  
25年度以後、順次ODD拡大を進める

### 推進体制



### 事例3 令和4～5年度 神奈川県平塚市の取り組み

23年4月に平塚市、神奈川中央交通、三菱商事、アイサンテクノロジー、A-Driveにて「自動運転移動サービスを中心とした地域公共交通のDX推進に係る連携協定」を締結。

同協定に基づき協議を行い、本事業では、平塚駅南口エリアにおける **既存バス路線でいすゞ自動車が提供する大型バスを自動運転レベル2で運行**し、将来的な自動運転レベル4運行に向けて取組みを推進。

#### 実証実験概要

<b>自動運転導入の目的</b>	既存路線バスへの自動運転導入により、ドライバー不足解消の一助とし、市民生活に欠かせないバス路線を確保・維持する事
<b>使用車両</b>	いすゞ自動車製大型バス「ERGA」自動運転車
<b>走行距離</b>	約4.3km
<b>自動運転レベル</b>	24年度はレベル2 27年度までにL4実装を目指す
<b>運行期間</b>	24年10月下旬～25年1月上旬 (車両チューニング等の準備運行を含む)



#### 運行ルート



平塚駅南口～すみれ平～平塚駅南口

#### 推進体制



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

### 事例4 令和4～5年度 神奈川県川崎市の取り組み

深刻な運転手不足により、路線バスの便数は、平成30年度の約12,400便/日から減少を続けており、令和5年度には約10,100便/日まで減少している（約2,300便/日・約19%減少）。

自動運転と有人運行を組み合わせた路線バスと多様な交通モードとの連携を図り、令和9年度までに2つの路線バスルートにおいて自動運転レベル4実装を達成し、市民生活の足を確保し、持続可能な地域交通環境を形成。

#### 実証実験概要

<b>自動運転導入の目的</b>	既存路線バスへの自動運転導入により、ドライバー不足解消の一助とし、市民生活に欠かせないバス路線を確保・維持する事
<b>使用車両</b>	ティアフォー minibus
<b>走行距離</b>	羽田連絡線 約4.4km 川崎病院線 約1.3km
<b>自動運転レベル</b>	24年度はレベル2 羽田連絡線において、27年度までにL4実装を目指す
<b>運行期間</b>	24年1月中旬～25年2月中旬 (車両チューニング等の準備運行を含む)



#### 運行ルート



#### 体制



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 事例5 令和4～5年度 愛知県の取り組み（モリコロパーク）

愛知県は、2016年度から自動運転の実証実験を積み重ね、自動運転の社会実装に向け、技術の向上、ビジネスモデルの構築や社会的受容性醸成のための取組を進めてきました。

本年度も、社会実装に向けた取組を深化させるため、モリコロパーク（愛・地球博記念公園、長久手市）において、「多数の歩行者が行き交う場所での歩車共存の検証」をテーマとした実証実験を実施。

### 実証実験概要

#### 自動運転導入の目的

愛知県全体への波及も狙いながら、モリコロパークでの実装なども見据えた取組みを加速していく

#### 使用車両

いすゞERGA（改）

#### 走行距離

園内ルート約3.7km

#### 自動運転レベル

24年度はレベル2

#### 運行期間

24年10月9日～25日



### 運行ルート



地球市民交流センター ～ ものけの里 ～ 魔女の谷  
～ ジブリの大倉庫 ～ 西口広場 ～ 日本庭園 ～ とんどこ森

### 体制



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 事例6 令和4～5年度 愛知県常滑市の取り組み

常滑市では、これまでも愛知県主体による自動運転実証が、空港島などを中心に進められており、愛知県内でも重要な自動運転実装フィールドと位置づけられている。市が地域の实情に合わせて社会実装することで、公共交通にかかる課題解消を目指すとともに、コミュニティバス路線で進めることで、社会的受容性を高める。また、国際展示場で開催されるイベントの来場者等、域外からの来訪者に対して、自動運転バスによる移動手段を提供し、空港エリア全体の回遊性を高め、来訪者への先端技術・サービスにかかる取組みを広くPRする。

### 実証実験概要

#### 自動運転導入の目的

- ・自動運転サービス導入による公共交通の課題解消
- ・中部国際空港エリア全体の回遊性向上と技術PR

#### 使用車両

いすゞERGA（改）  
ティアフォー minibus

#### 自動運転レベル

24年度はレベル2  
(27年度L4実装目標)

#### 走行距離

約4.3km

#### 運行体制

知多乗合株式会社  
(名鉄グループ)



### 運行ルート



常滑駅～りんくう常滑駅(イオンモール常滑)  
～常滑駅(既存コミュニティバス路線区間)

### 体制



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 事例7 令和4～5年度 名古屋市の取り組み

<https://www.city.kuwana.lg.jp/documents/2666/231006kuwanajissyoujikkenpress.pdf>

名古屋市では、ガイドウェイバス志段味線（愛称：ゆとりーとライン）において、自動運転技術を活用した新たなシステムの導入を検討中。検討の一環として、令和4年度に引き続き、大型の自動運転バスを走行させ、車両制御の精度を検証する実証実験を実施。令和5年度の実証実験では、一般市民向けに、自動運転バスの体験を目的としたモニター試乗を実施。

### 実証実験概要

#### 自動運転実証の目的

ガイドウェイバス志段味線（愛称：ゆとりーとライン）における自動運転技術を活用した新たなシステムの導入検討

#### 使用車両

いすゞERGA（改）



#### 走行距離

GWバSRートを想定したテストコース、約600m（閉鎖空間）

#### 自動運転レベル

24年度はレベル2

#### 運行期間

24年12月中旬～12月末

### 運行ルート



GWバSRートを想定したテストコース（愛知県尾張旭市、守山南部処分場）

### 体制



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 事例8 令和4～5年度 三重県桑名市の取り組み

<https://www.city.kuwana.lg.jp/documents/2666/231006kuwanajissyoujikkenpress.pdf>

桑名市では、市内の交通空白地を解消、及び安全かつ円滑で持続可能な地域公共交通手段確保のため、これまで自動運転の取組みを実施してきており、三重交通、アイサンテクノロジー、A-Drive等の座組で自動運転運行を支援本事業では公道及び長島リゾート内において、Level4を見据えた実証を行い、25年度中のL4申請と26年度の実装を進める

### 実証実験概要

#### 自動運転実証の目的

観光都市における自動運転サービスの社会実装に向けた技術・運用・事業性の検討、及び社会受容性の確立

#### 使用車両

ティアフォー minibus



#### 走行距離

往復約25km

#### 自動運転レベル

24年度はレベル2（25年度、一部区間よりレベル4申請予定）

#### 運行期間

25年1月中旬～1月末

### 運行ルート



### 体制



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

# 社会実装に向けて

## 自動運転の社会実装に向けた課題

### 自動運転の実現に向けた課題

国土交通省

- 自動運転の実現に向けて、①安全性の向上、②地域の理解、③事業性の確保、が課題。



#### 安全性の向上

道路で遭遇するあらゆる  
リスクに対応する必要

公道での走行経験を蓄積  
して安全性を向上



技術

#### 地域の理解

地域住民から安全性への  
理解を得る必要

継続的に同じ地域で走行し  
地域住民の安心感を形成



社会受容性

#### 事業性の確保

自動運転車による運送  
サービスの採算確保

実証事業での経験を重ね  
事業モデルを磨き上げ



事業継続性

## 長野県塩尻市の取り組み（市民×自動運転）



高校生5名試乗



幼稚園児・高齢者・移住者家族を含む試乗



公共交通が好きな高校生（松本在住、蟻ヶ崎高校生）



高校生14名試乗



西小学校5年生試乗



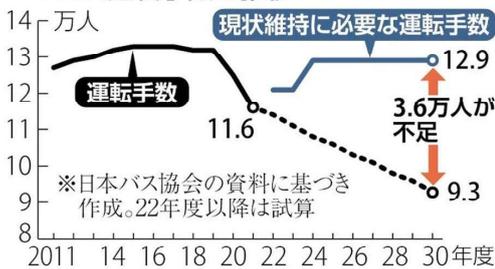
毎日乗車した幼稚園児



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

## 地域交通の担い手・移動の足の不足を、自動運転が解消する

### バス運転手数の推移



帝国データバンクが全国のバス会社127社に行った調査によると、2023年中に路線の減便や廃止を実施したのは98社（77%）に上った。

2024/04/17 読売新聞オンラインより抜粋

### 交通・物流DXによって目指す将来像

デジタル・データをフル活用して、地域交通の担い手・移動の足の不足、物流2024問題、地方の活力の低下などの深刻な社会課題を解決し、交通・物流を革新する「交通・物流DX」を実現する。

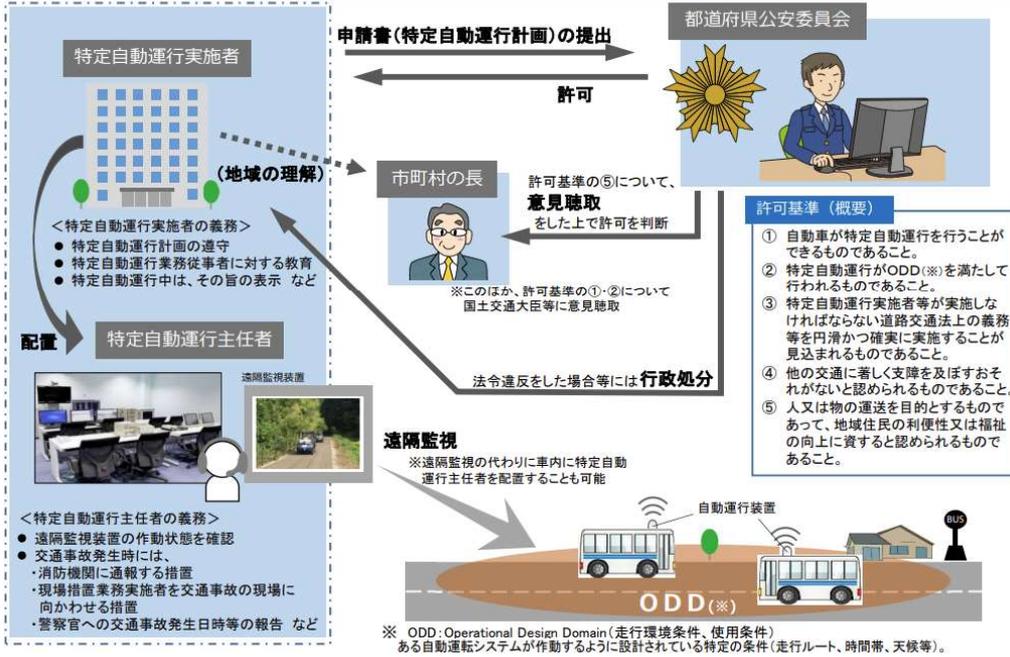
実現を目指す姿	短中期	長期	
地域交通	地域の輸送資源の総動員 公共ライドシェア、日本版ライドシェアの発展 キャッシュレス化	専用空間での自動運転 自動運転バス・タクシーの実装 完全自動運転の定着 MaaSの進展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 横車の発想で、輸送資源をフル活用して効率的にサービスを提供する</li> <li>○ データを活用して交通事業運営を効率化する</li> <li>○ モビリティとインフラが連携した完全自動運転の実現を目指す</li> </ul>
物流	タブル連結トラック 自動運転トラック	自動運航船 自動物流道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幹線物流の無人化を目指す</li> </ul>
高速道路	都市部ETC専用化 (2025概成) データ活用	地方部ETC専用化 (2030概成) 渋滞緩和や地方振興の観点からの料金体系への見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ データや料金を活用し、交通流を最適化する</li> </ul>

2024/06/06 国土交通省資料より抜粋

Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

地域交通の担い手・移動の足の不足を、自動運転が解消する

特定自動運行の許可制度のイメージ



POINT!

特定自動運行主任者は、

- ①資格ではなく「許認可」
- ②大型バス免許等が不要
- ③二種免許も不要の方向に

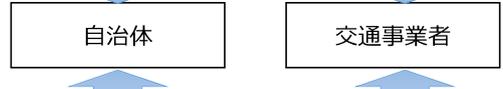
施策案(仮説)

バスドライバは主要路線に従事、  
端末路線自動運転で補う事で、  
交通ネットワークを維持可能

ドライバではなく、特定自動運行者の新たな雇用を創出  
(地域人財の活用)

Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

2023年2月 三菱商事とA-Drive社を設立



A-Drive株式会社

自動運転ワンストップサービスを実現  
自動運転車両を利用する上で必要となる機器・システム・インフラ設備などの調達支援や、自動運転車を運行する為のリーシングおよび総合コンサル等を自治体・交通事業者にて提供

AISAN 60%

- ・高精度3次元地図データ
- ・自動運転車両・システム構築
- ・自動運転オペレーション (メンテナンス、遠隔管制、チューニング)

三菱商事 40%

- ・自動運転の付加価値を高め得る既存事業 (オンデマンドバス、MaaS等)
- ・自動車販売事業で培った知見
- ・モビリティ・サービス開発に関する知見



ISUZU

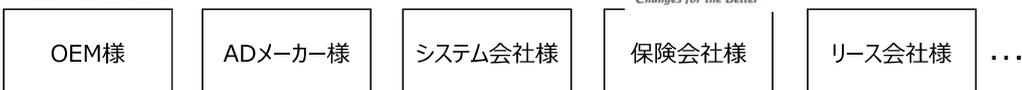
TIER IV

KDDI

損保ジャパン

MITSUBISHI ELECTRIC

TOKAI RIKA



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

# A-Drive "One-Stop-Service"

## 現状

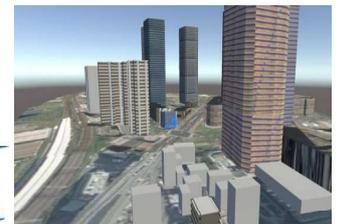
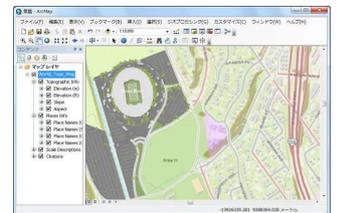


Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

## DX 交通DX～自治体DXへ・・・自動運転データを活用した新たなDXソリューション

レイヤー構造	領域・機能のキーワード	主な事業領域
社会・生活サービスレイヤー	付加価値事業: 観光, 物流・輸送, 小売・飲食サービス, ヘルスケア (介護・医療), エネルギーマ...	社会・生活活動サービス企業の事業領域
	公共サービス: 交通情報, 災害・防災情報, 見守り, ...	
MaaS・モビリティ連携レイヤー	予約, 配車, 決済, ...	MaaSオペレーターの事業領域
	マルチモーダル・交通システム連携, ナビゲーション・ロケーション (リアルタイム), バスロケーション (3Dor2Dでの位置情報, 到着時刻 等)	
個別モビリティレイヤー	鉄道・飛行機, 路線バス, コミュニティバス, 乗合タクシー, 過疎地有償運送, 自家用車, ...	交通事業者・ベンチャー等の事業領域
	タクシー, デマンドバス, パーソナルモビリティ, 自転車, ...	
行政サービスレイヤー	社会インフラの効果的・効率的な計画・整備・メンテナンス	行政への事業領域
	計画・設計・評価, 防災・減災, 維持管理, ...	
データ基盤レイヤー	MMSデータを活用した3次元データプラットフォーム基盤【地域版スマートプラットフォーム】	IT・ベンチャ等の事業領域

### 行政サービスの効率化



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.



# 交通DX～自治体DXへ・・・自動運転データを活用した新たなDXソリューション

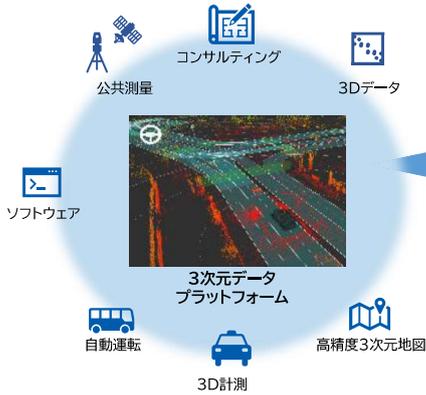
## DX事業における3本の柱

長年にわたる公共測量アプリケーションで培ったノウハウ(祖業の強み)

国内NO.1の自動運転の社会実装ノウハウを活かした自治体向けソリューション

様々な行政データを3次元上で統合・可視化・分析し、自治体の様々な分野でのDXを支援

## アイサンテクノロジーの強み



## DX事業のロードマップ

●自治体を中心にインフラおよび交通分野のDXを推進するソリューションを提供  
2024年 2025年 2026年 2027年～

### DXダッシュボード

- 自動運転実証実施自治体
  - 自治体横展開
  - インフラ企業等へ展開
- ✓ データ統合/管理 (行政データ、点群データ等)
  - ✓ データ整備/構築業務の受託
  - ✓ デジタルツイン可視化
  - ✓ 連携自社製品の開発販売
  - ✓ データ分析機能 (交通量、アセスメント等)
  - ✓ DXコンサルティング



### ●未来の社会インフラを創造(まちづくり)

- 交通DXでの活用
  - インフラDXでの活用
  - まちづくりでの活用
- モビリティ設計/開発  
自動走行社会実装
  - 維持管理・防災・減災
  - 都市計画・観光・交通  
設計・分析・評価



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.

## モビリティ・DXセグメント 業績進捗

(単位:百万円)

	2025年3月期 第3四半期 (2024.4.1~2024.12.31)	2024年3月期 第3四半期 (2023.4.1~2023.12.31)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	1,917,734	1,174,880	742,854	63.2%
営業利益	142,522	▲94,192	236,715	-

### 請負契約に係る受注残高(第3四半期連結累計期間末時点)

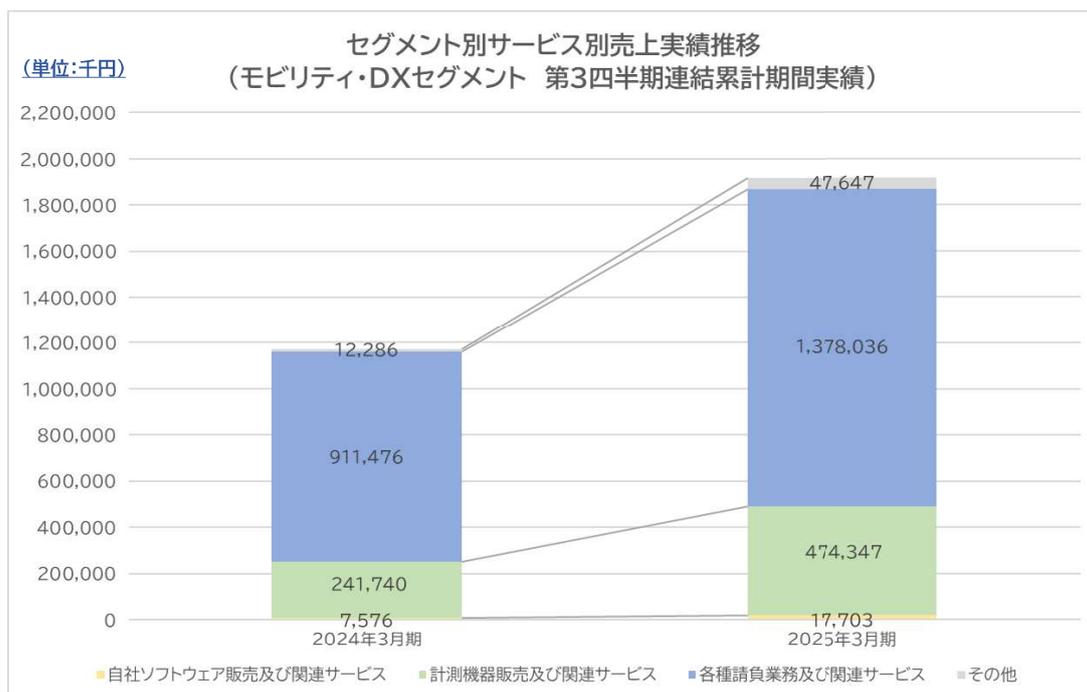
(単位:百万円)

	当連結 累計期間	前連結 累計期間	前期比 (%)
計測機器販売及び関連サービス	5	8	-29.8%
各種請負業務及び関連サービス	947	1,044	-9.3%
合計	952	1,052	-9.5%

Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.



## モビリティ・DXセグメント 業績進捗



Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.



## モビリティ・DXセグメント 業績進捗

	当連結会計年度			前連結会計年度		
	2025年3月期 第3四半期累計 実績	2025年3月期 年度業績 予想	年度業績予想に 対する進捗率 (%)	2024年3月期 第3四半期累計 実績	2024年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	1,917	3,062	62.6%	1,174	2,091	56.2%
営業利益(損失)	142	191	74.6%	▲94	278	—
売上高 営業利益率(%)	7.4%	6.2%	—	—	13.3%	—

Copyright © 2025 Aisantechnology All Rights Reserved.



